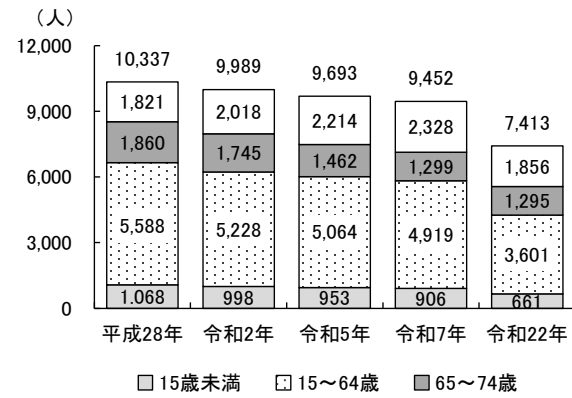
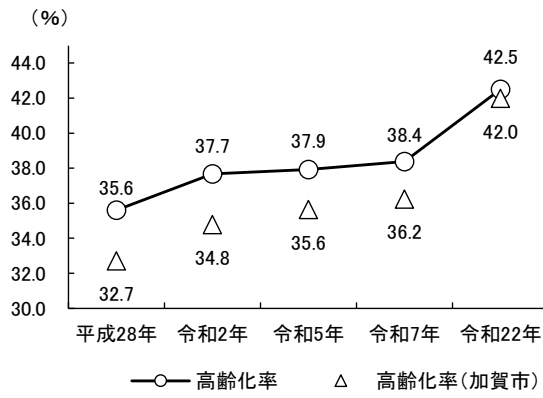


(1)大聖寺地区

<人口の推移>

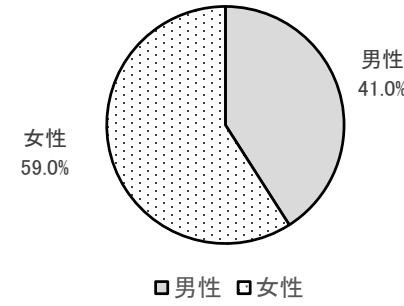


<高齢化率の推移>

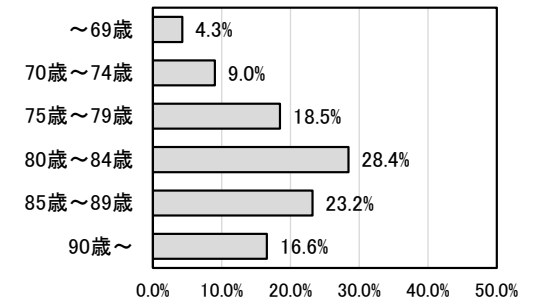


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

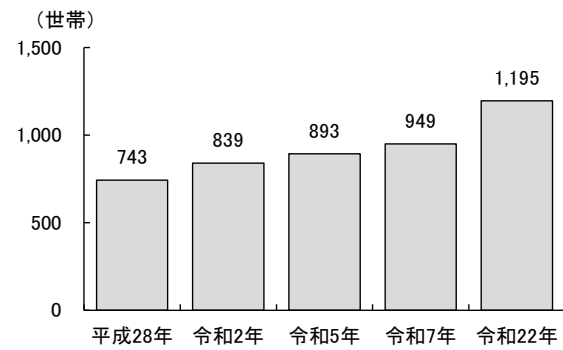
<性別>【n=210】



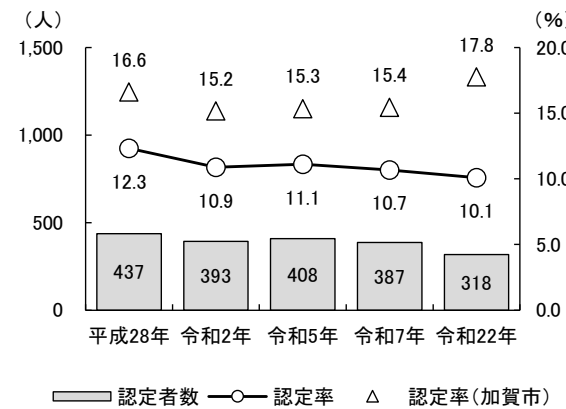
<年齢>【n=211】



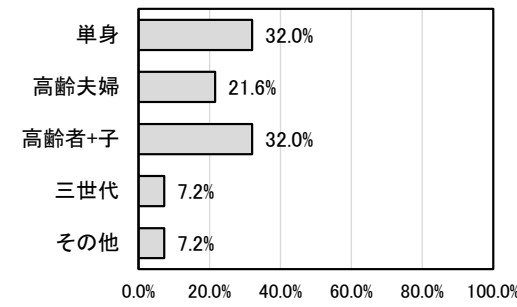
<単身高齢世帯数の推移>



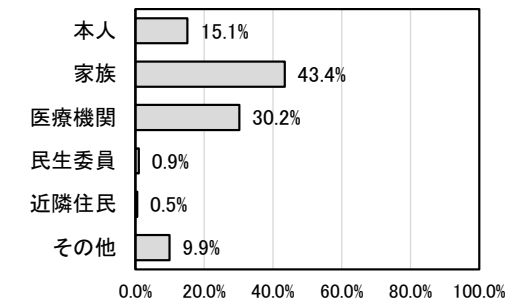
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



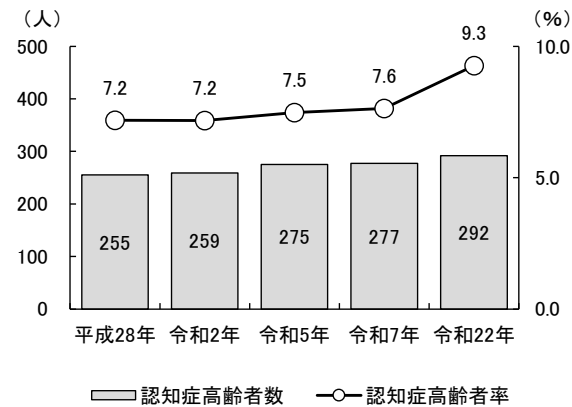
<世帯構成>【n=153】



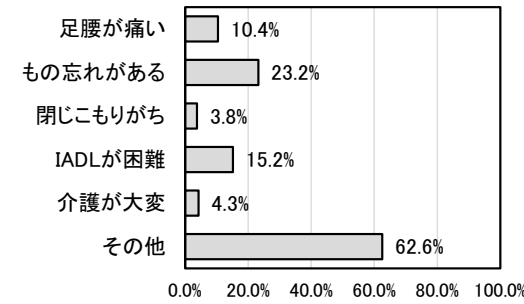
<相談者>【n=212】



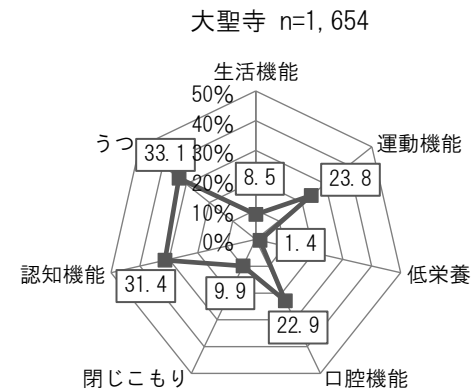
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



<主訴>【n=211】



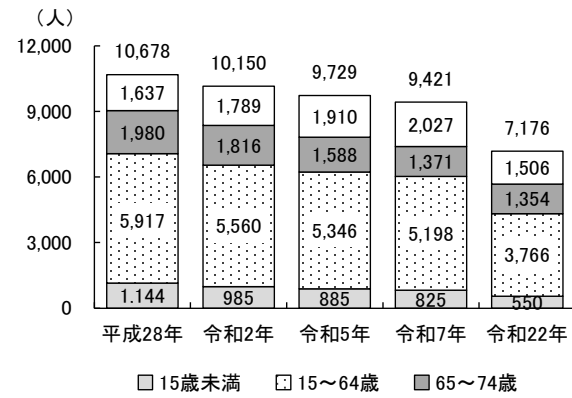
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



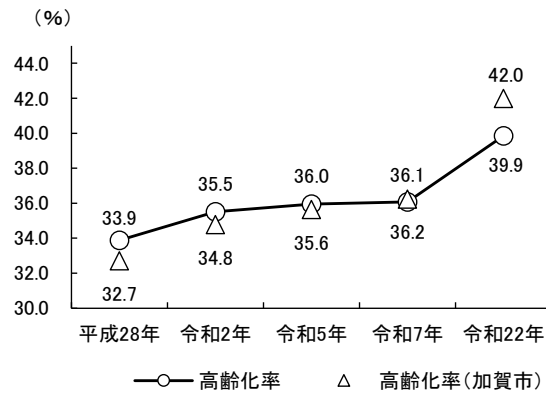
○大聖寺地区の介護予防該当率は59.9%となっており、21地区中16番目の高さとなっている。
○7項目のリスク別該当率は「うつ傾向リスク」(33.1%)が最も高く、次いで「認知機能リスク」(31.4%)となっている。

(2)山代地区

<人口の推移>

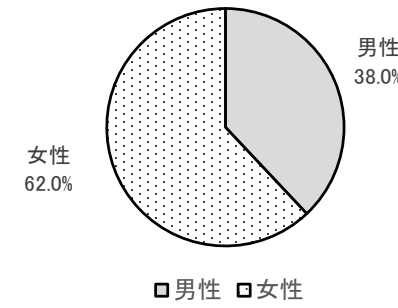


<高齢化率の推移>

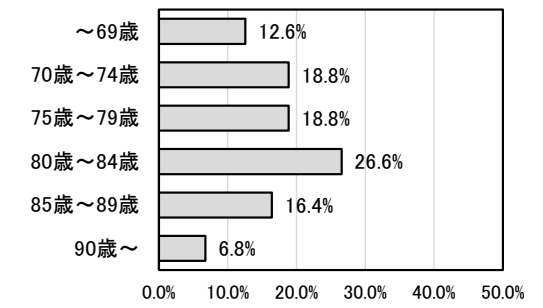


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

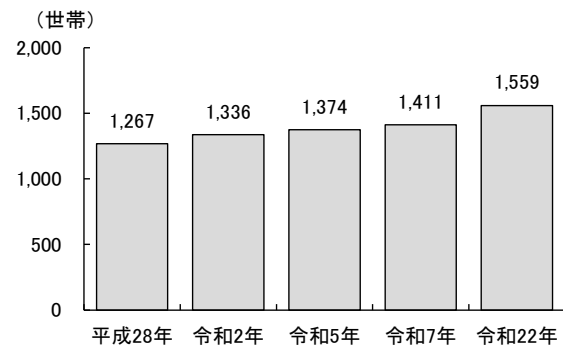
<性別>【n=208】



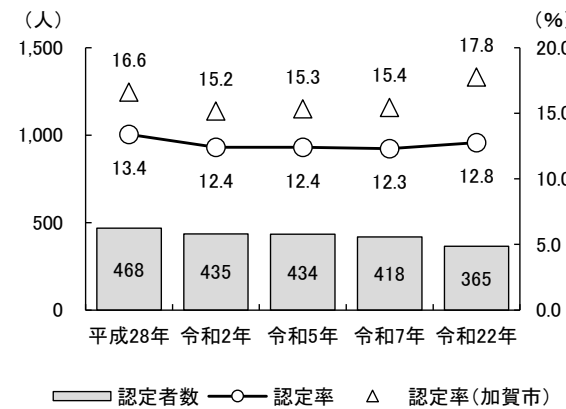
<年齢>【n=207】



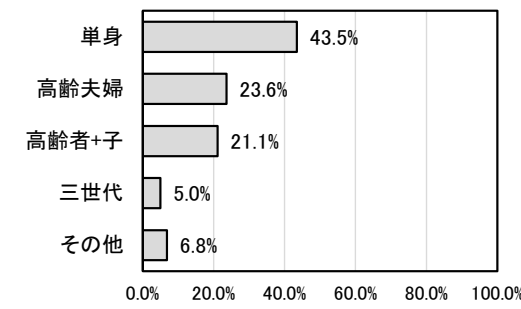
<単身高齢世帯数の推移>



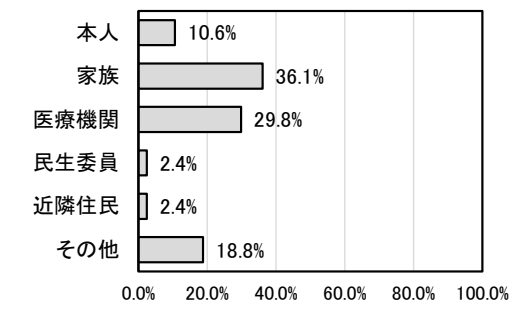
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



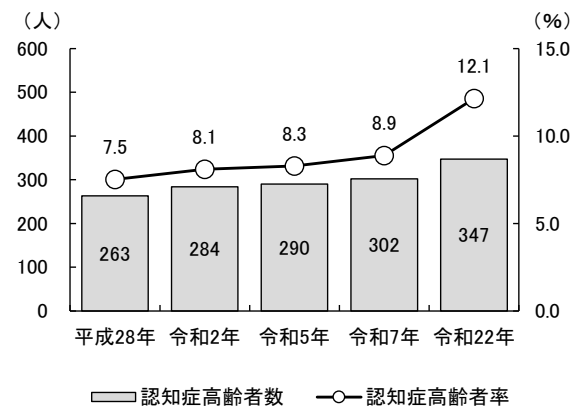
<世帯構成>【n=161】



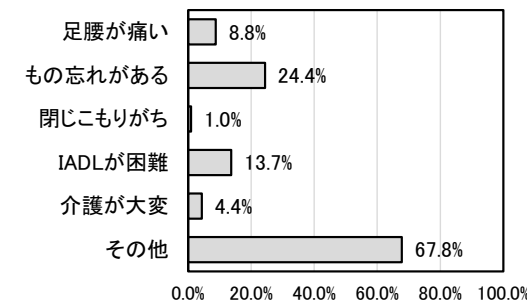
<相談者>【n=208】



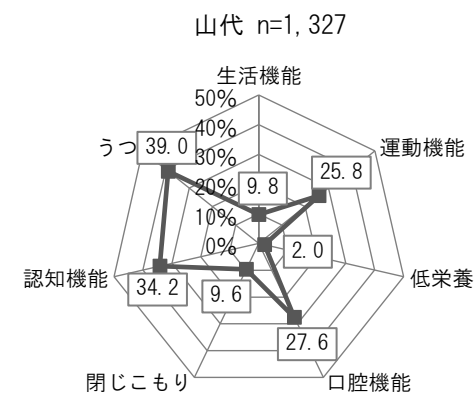
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



<主訴>【n=205】



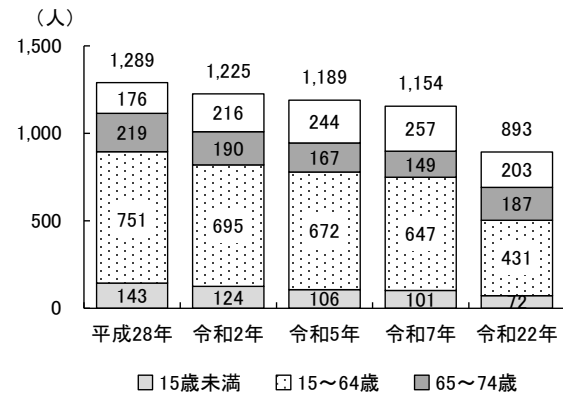
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



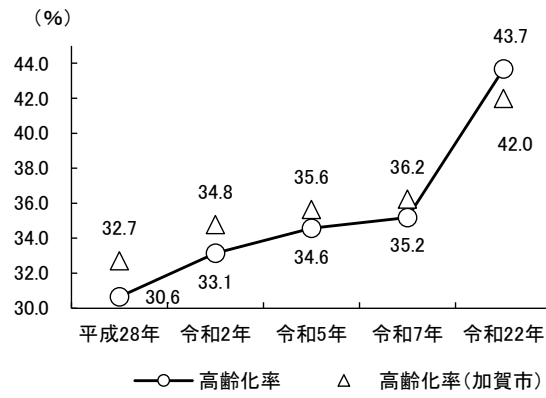
- 山代地区の介護予防該当率は65.3%となっており、21地区中8番目の高さとなっている。
- 7項目のリスク別該当率は「うつ傾向リスク」(39.0%)が最も高く、次いで「認知機能リスク」(34.2%)となっている。
- 「うつ傾向リスク」が21地区中最も高くなっている。

(3)別所地区

<人口の推移>

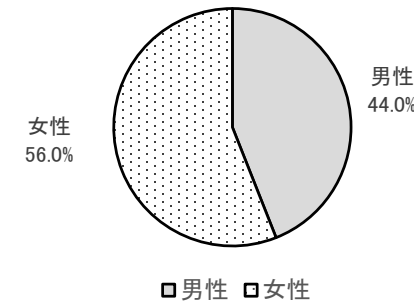


<高齢化率の推移>

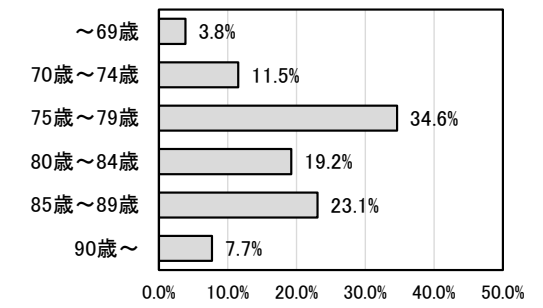


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

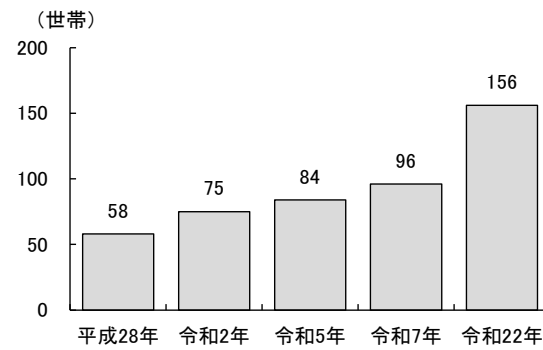
<性別>【n=25】



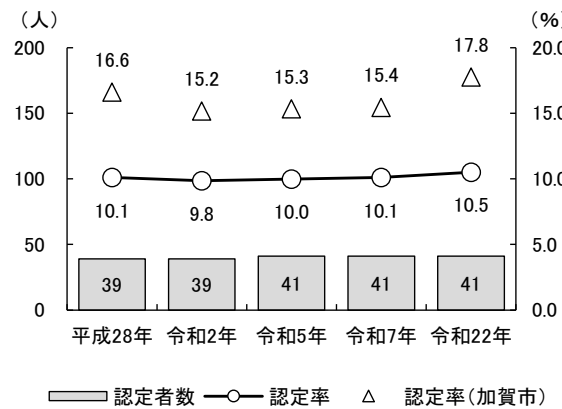
<年齢>【n=26】



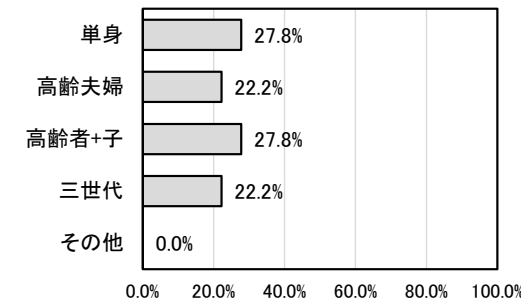
<単身高齢世帯数の推移>



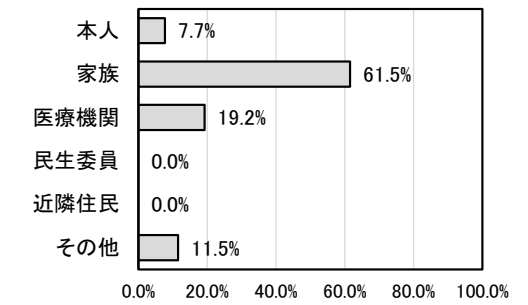
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



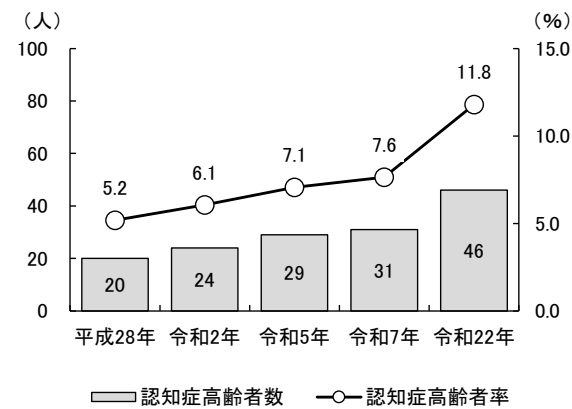
<世帯構成>【n=18】



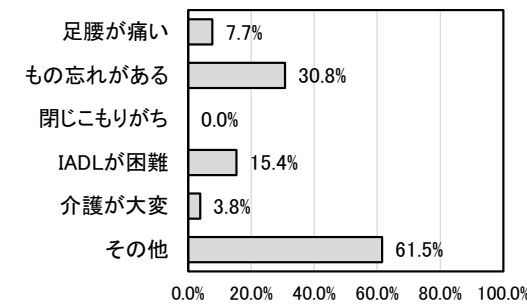
<相談者>【n=26】



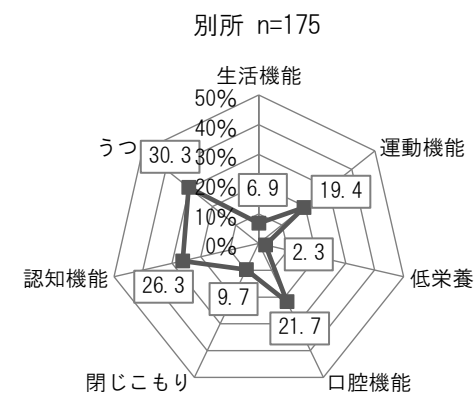
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



<主訴>【n=26】



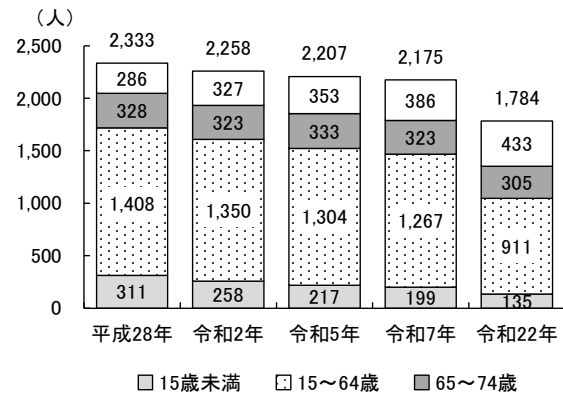
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



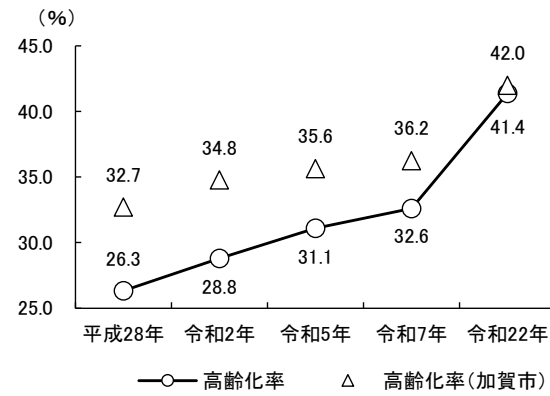
- 別所地区の介護予防該当率は52.6%となっており、21地区中最も低くなっている。
- 7項目のリスク別該当率は「うつ傾向リスク」(30.3%)が最も高く、次いで「認知機能リスク」(26.3%)となっている。
- 「認知機能リスク」が21地区中最も低くなっている。

(4)庄地区

<人口の推移>

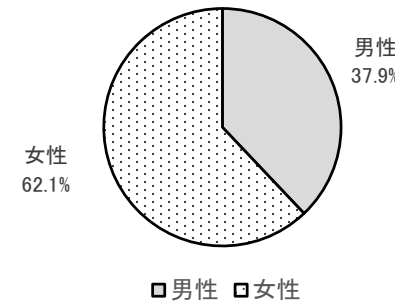


<高齢化率の推移>

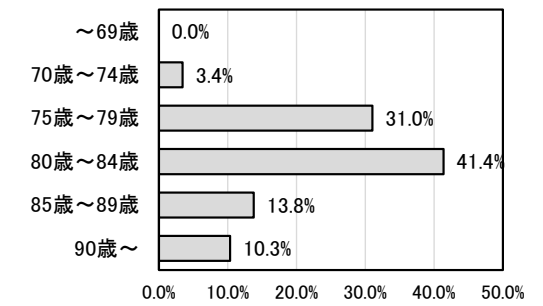


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

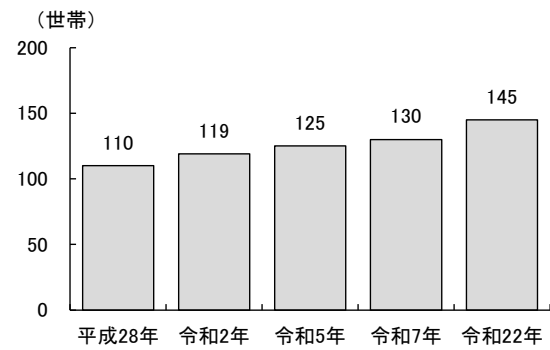
<性別>【n=29】



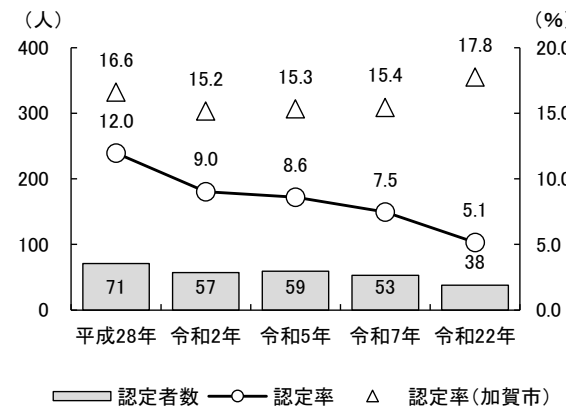
<年齢>【n=29】



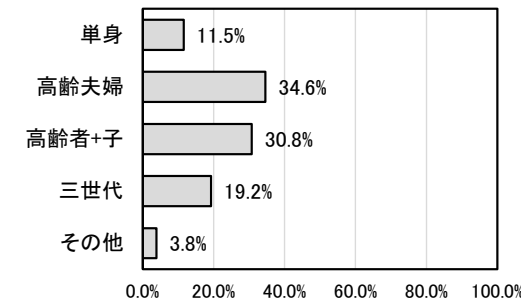
<単身高齢世帯数の推移>



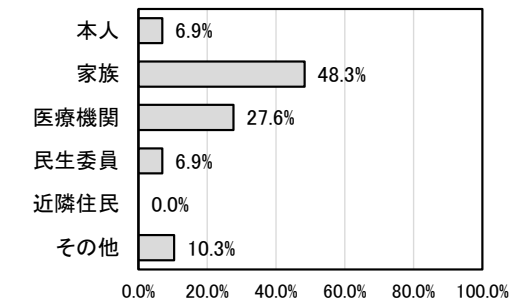
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



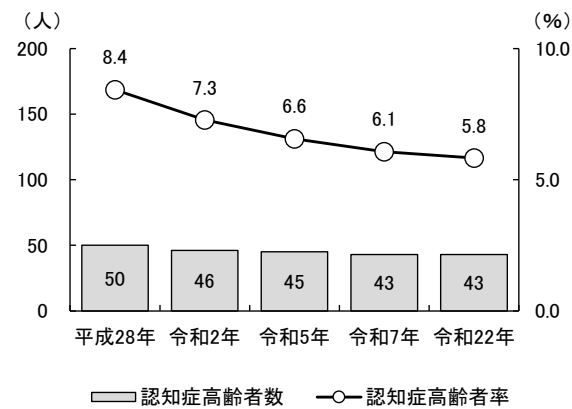
<世帯構成>【n=26】



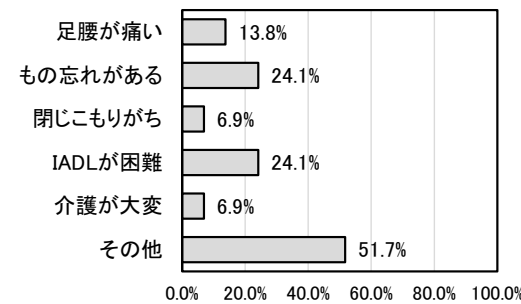
<相談者>【n=29】



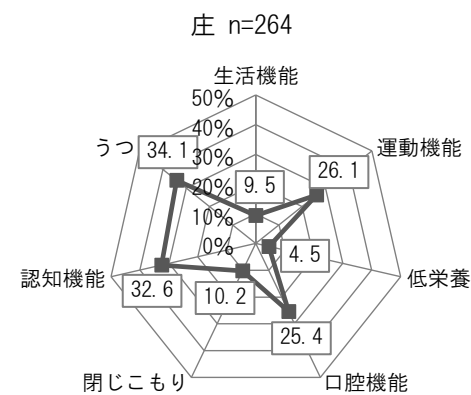
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



<主訴>【n=29】



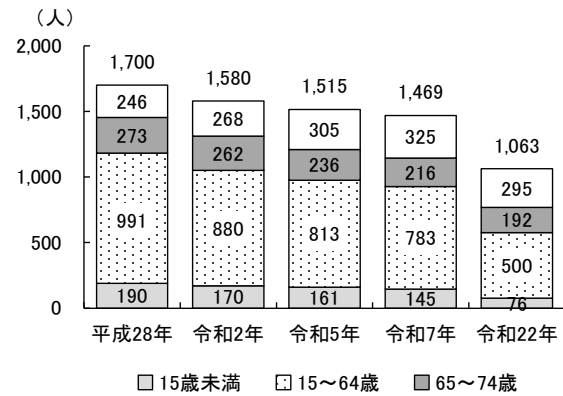
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



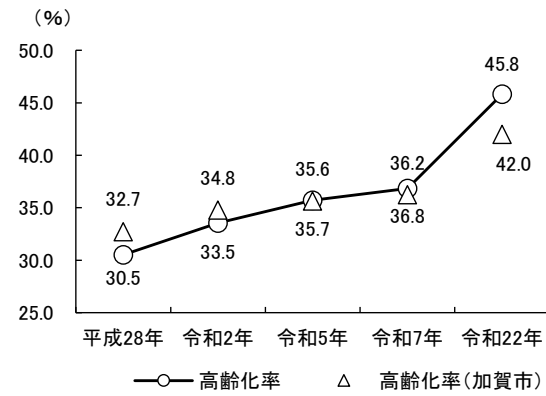
- 庄地区の介護予防該当率は64.4%となっており、21地区中9番目の高さとなっている。
- 7項目のリスク別該当率は「うつ傾向リスク」(34.1%)が最も高く、次いで「認知機能リスク」(32.6%)となっている。
- 「低栄養リスク」が21地区中最も高くなっている。

(5) 勅使地区

<人口の推移>

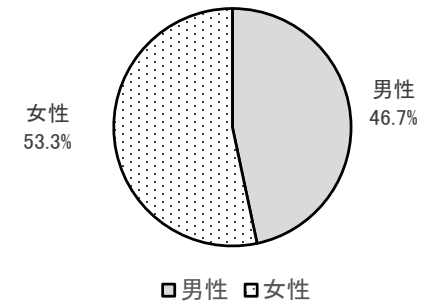


<高齢化率の推移>

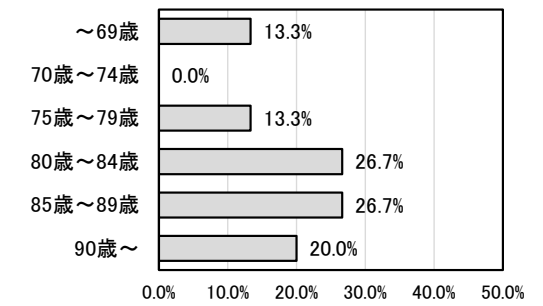


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

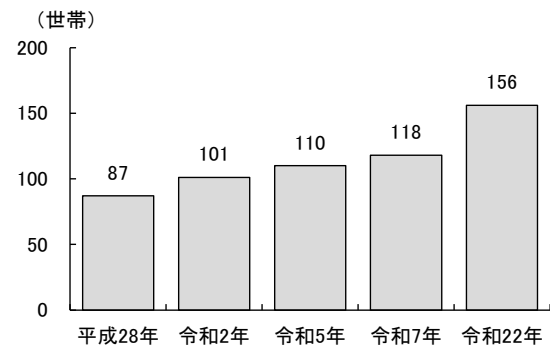
<性別>【n=15】



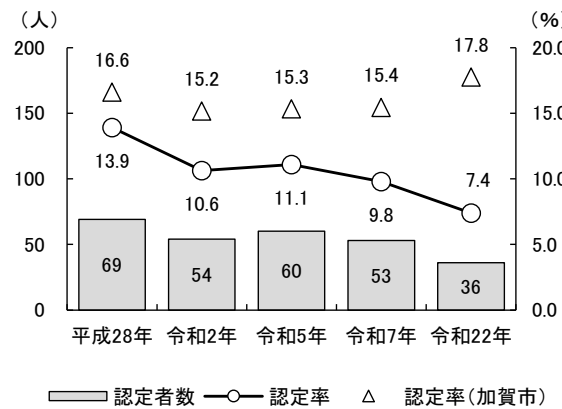
<年齢>【n=15】



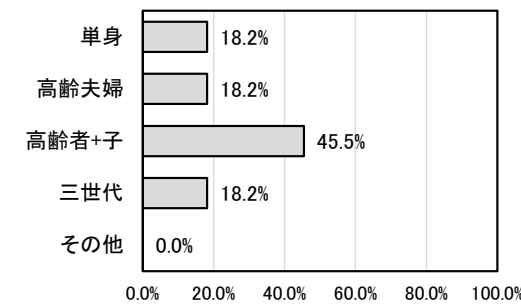
<単身高齢世帯数の推移>



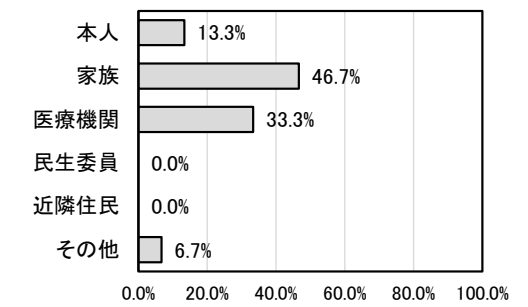
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



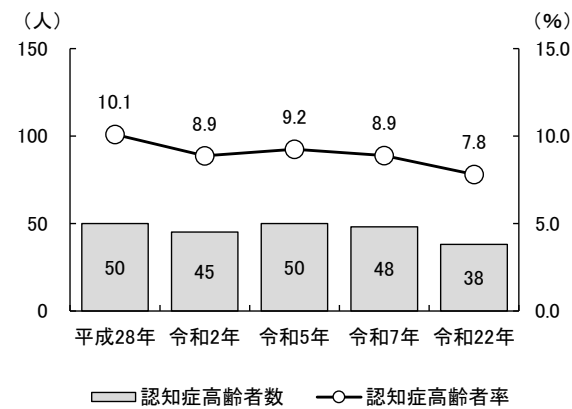
<世帯構成>【n=11】



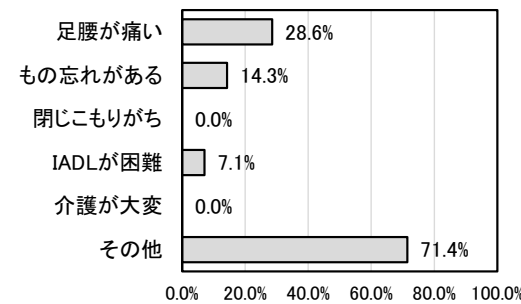
<相談者>【n=15】



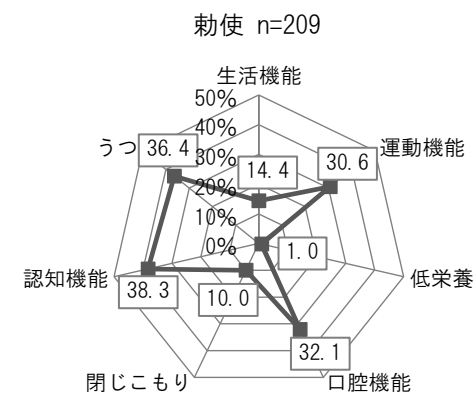
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



<主訴>【n=14】



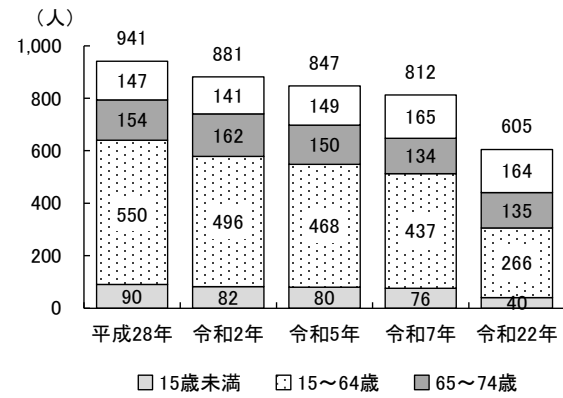
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



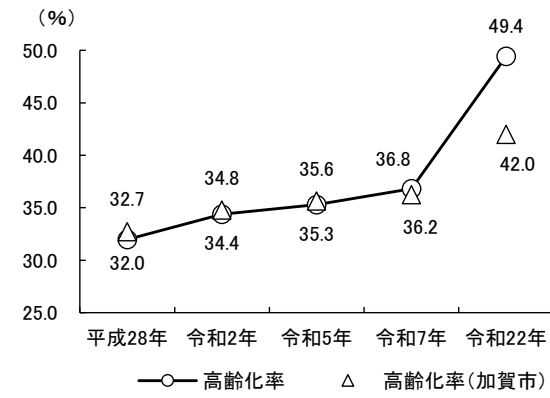
- 勅使地区の介護予防該当率は62.7%となっており、21地区中11番目の高さとなっている。
- 7項目のリスク別該当率は「認知機能リスク」(38.3%)が最も高く、次いで「うつ傾向リスク」(36.4%)となっている。
- 「生活機能リスク」「口腔機能リスク」が21地区中最も高く、「認知機能リスク」が2番目、「運動機能リスク」が4番目の高さとなっている。

(6)東谷口地区

<人口の推移>

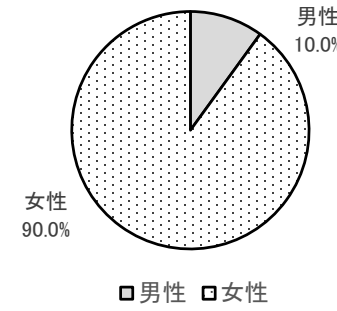


<高齢化率の推移>

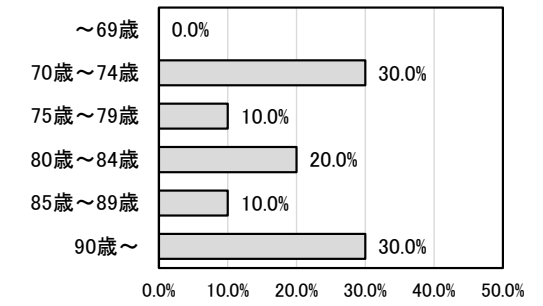


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

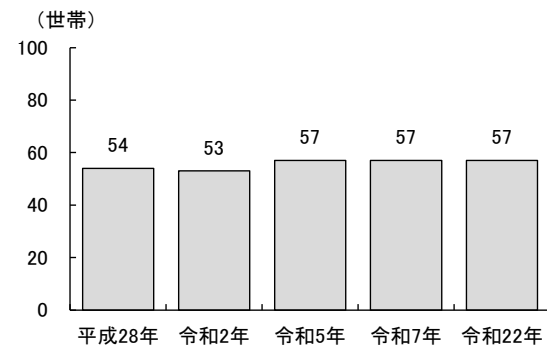
<性別>【n=10】



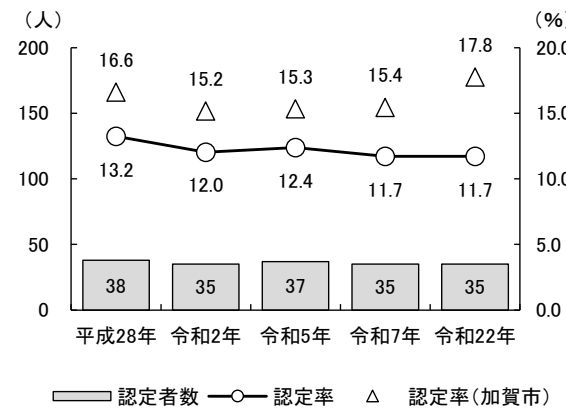
<年齢>【n=10】



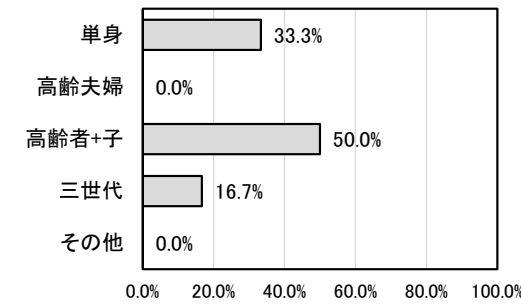
<単身高齢世帯数の推移>



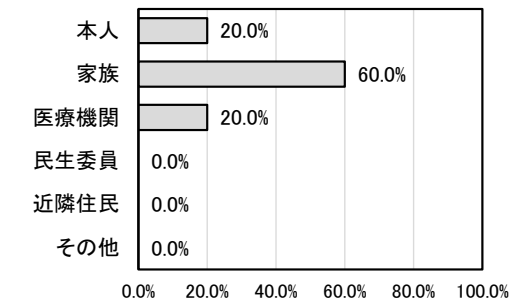
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



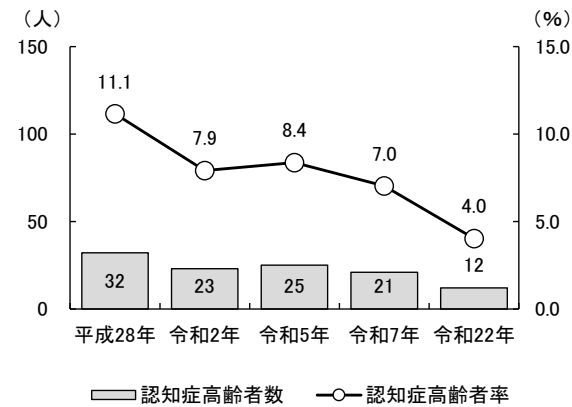
<世帯構成>【n=6】



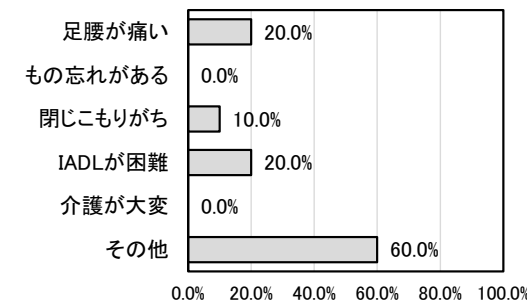
<相談者>【n=10】



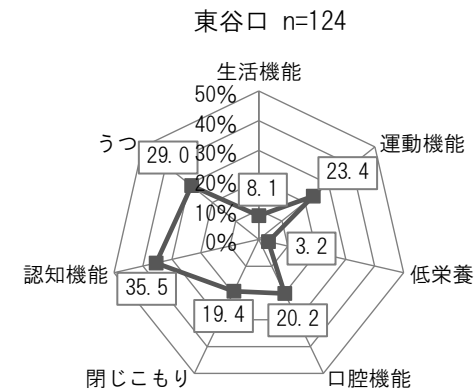
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



<主訴>【n=10】



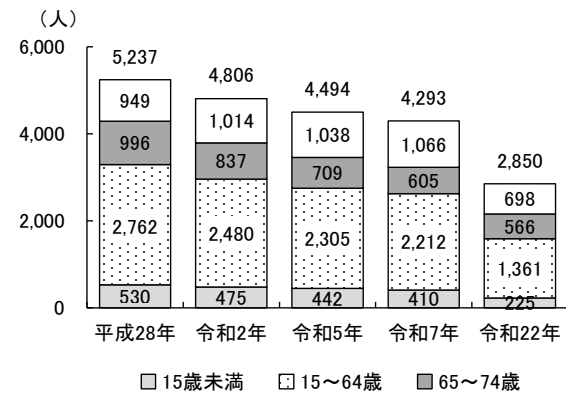
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



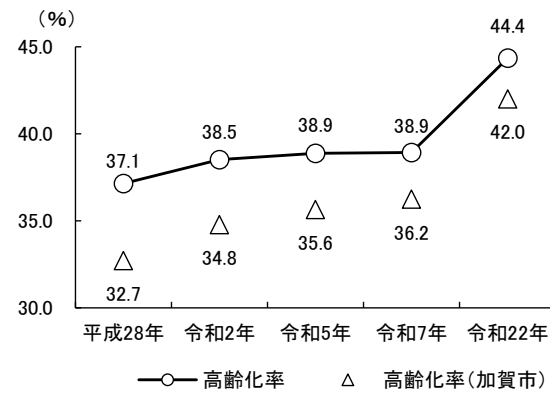
- 東谷口地区の介護予防該当率は61.3%となっており、21地区中15番目の高さとなっている。
- 7項目のリスク別該当率は「認知機能リスク」(35.5%)が最も高く、次いで「うつ傾向リスク」(29.0%)となっている。
- 「閉じこもりリスク」が21地区中2番目、「低栄養リスク」が3番目の高さとなっており、「口腔機能リスク」が21地区中最も低くなっている。

(7)片山津地区

<人口の推移>

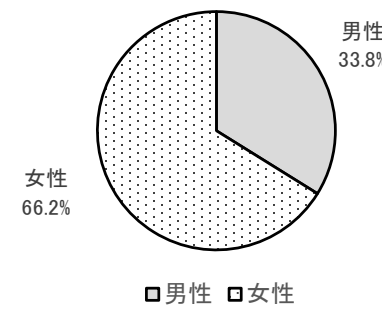


<高齢化率の推移>

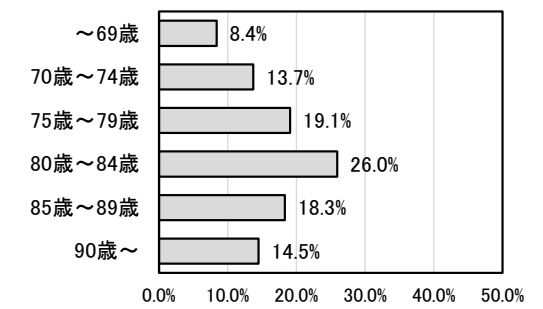


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

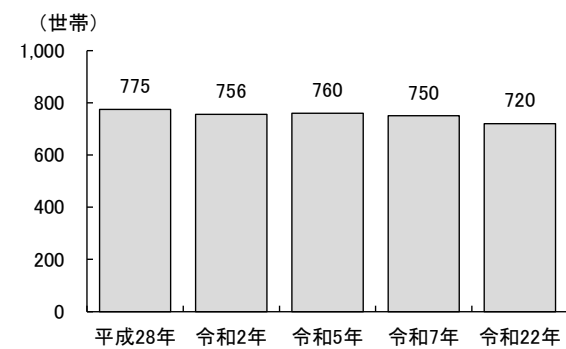
<性別>【n=130】



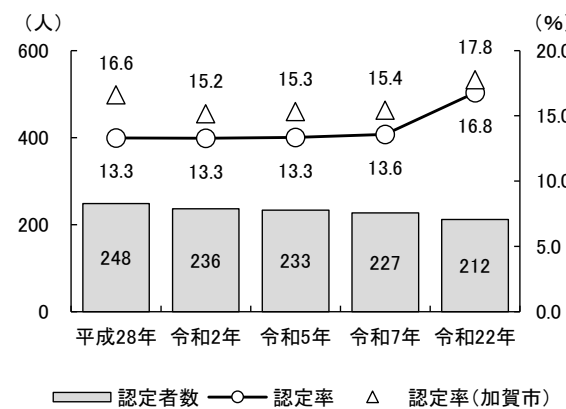
<年齢>【n=131】



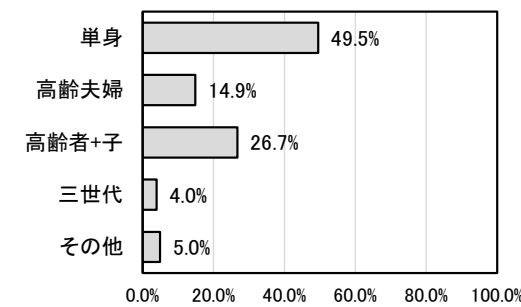
<単身高齢世帯数の推移>



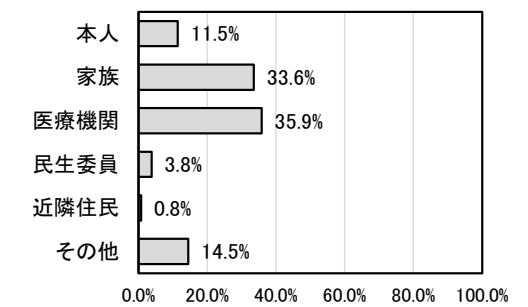
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



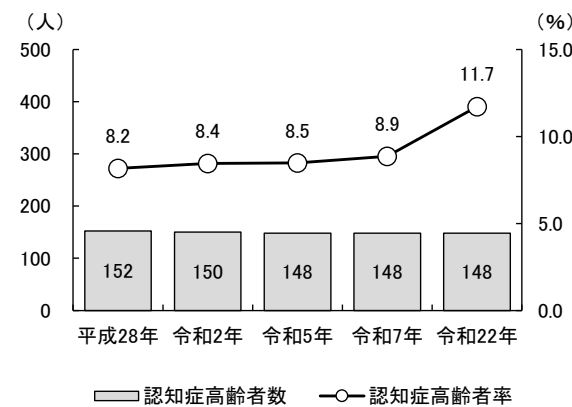
<世帯構成>【n=101】



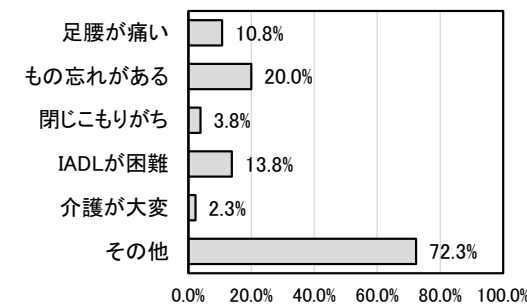
<相談者>【n=131】



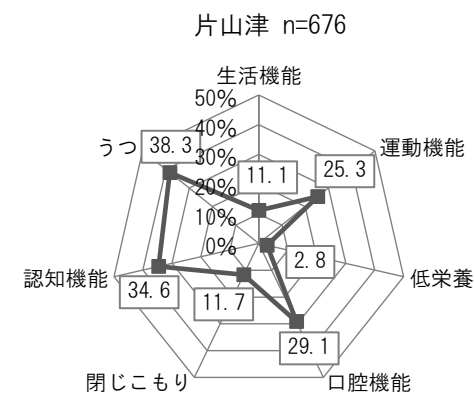
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



<主訴>【n=130】



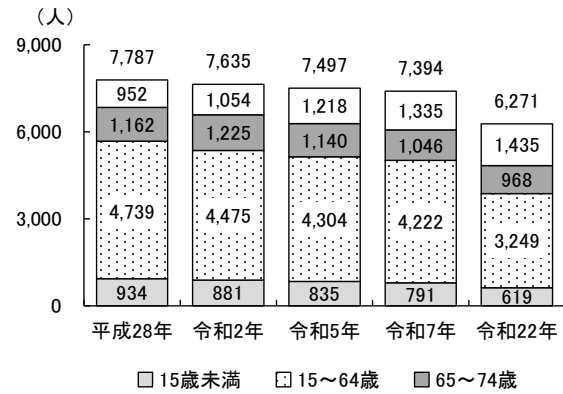
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



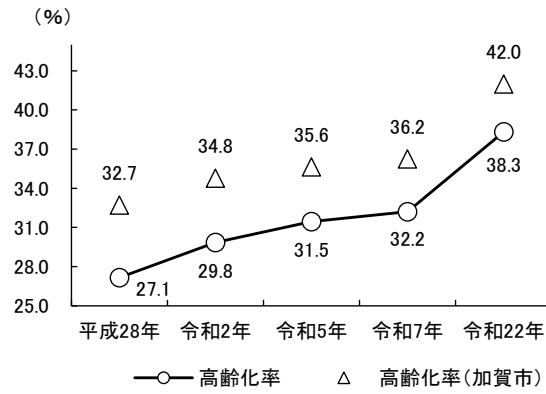
○片山津地区の介護予防該当率は67.6%となっており、21地区中4番目の高さとなっている。
 ○7項目のリスク別該当率は「うつ傾向リスク」(38.3%)が最も高く、次いで「認知機能リスク」(34.6%)となっている。
 ○「うつ傾向リスク」が21地区中3番目、「低栄養リスク」「口腔機能リスク」が4番目、「生活機能リスク」「閉じこもりリスク」が5番目の高さとなっている。

(8)作見地区

<人口の推移>

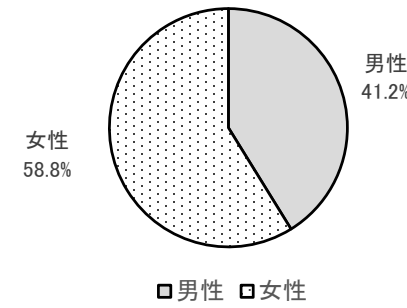


<高齢化率の推移>

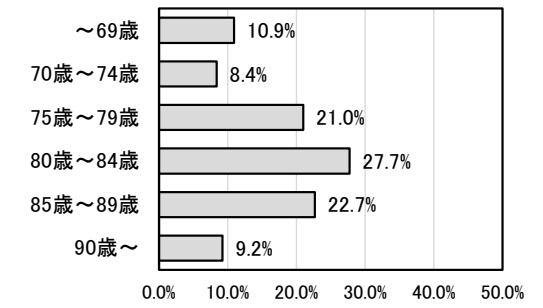


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

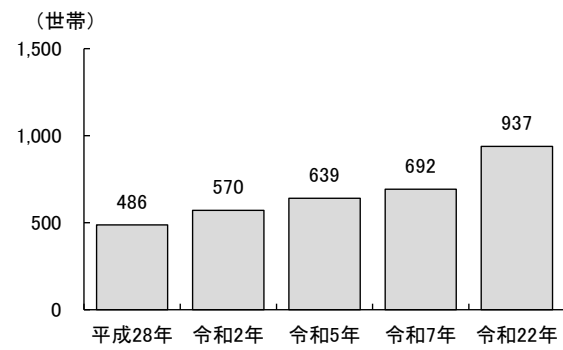
<性別>【n=119】



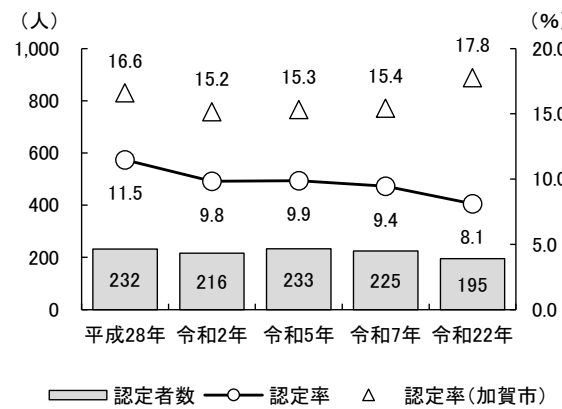
<年齢>【n=119】



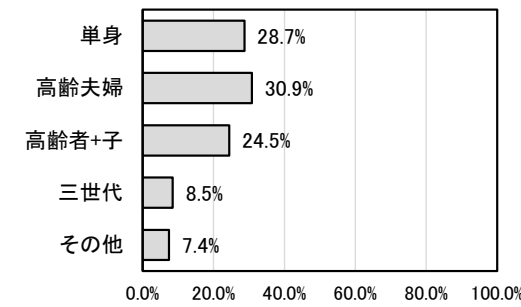
<単身高齢世帯数の推移>



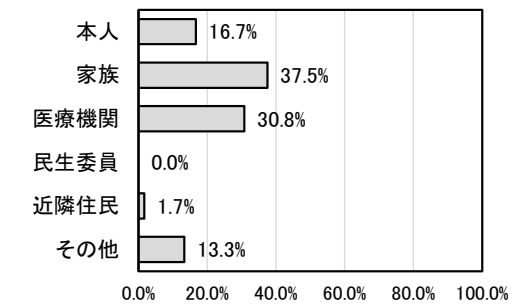
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



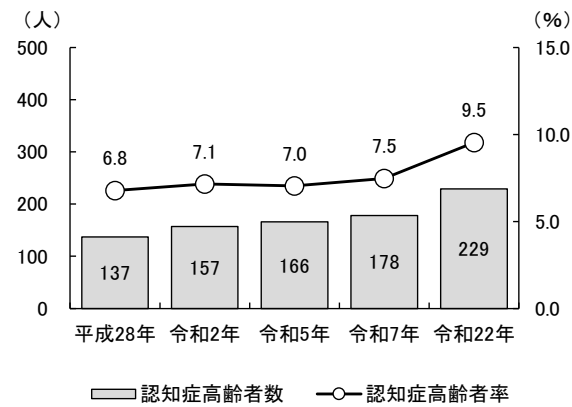
<世帯構成>【n=94】



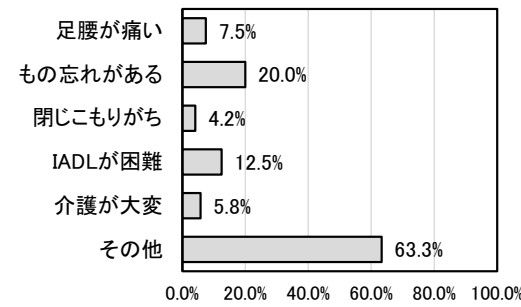
<相談者>【n=120】



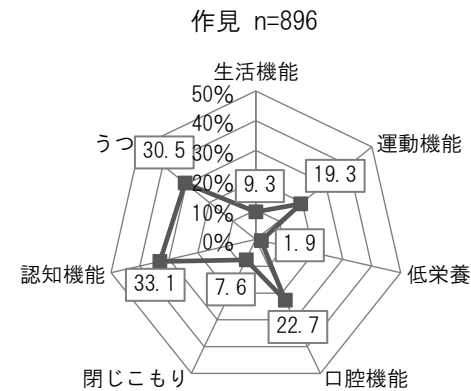
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



<主訴>【n=120】



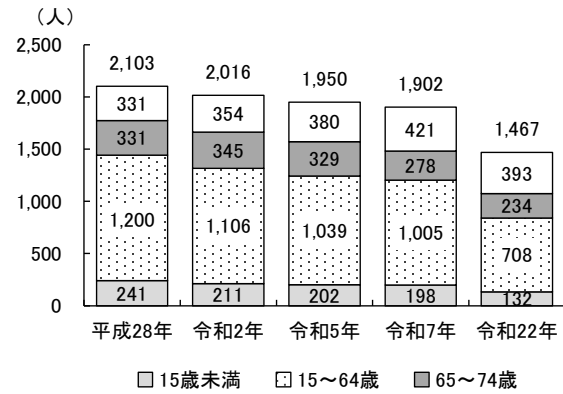
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



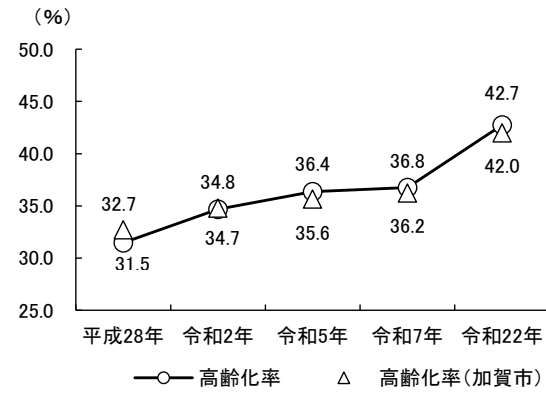
○作見地区の介護予防該当率は59.6%となっており、21地区中17番目の高さとなっている。
○7項目のリスク別該当率は「認知機能リスク」(33.1%)が最も高く、次いで「うつ傾向リスク」(30.5%)となっている。

(9)金明地区

<人口の推移>

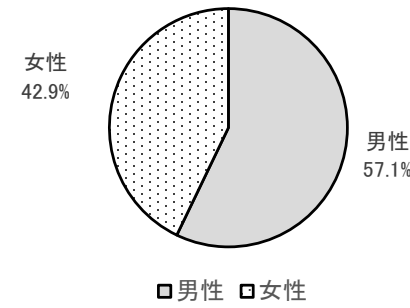


<高齢化率の推移>

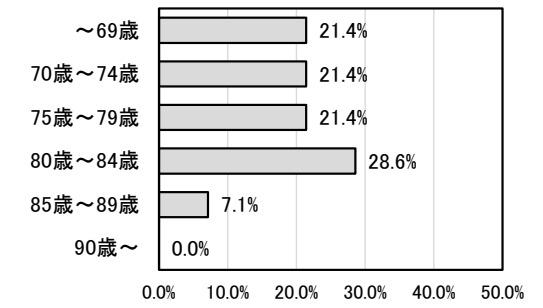


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

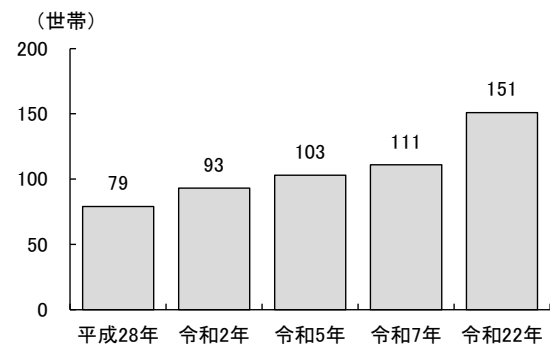
<性別>【n=14】



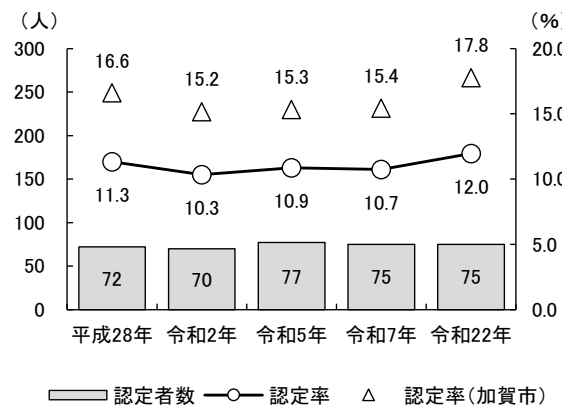
<年齢>【n=14】



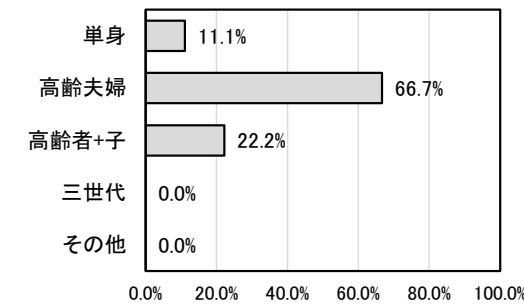
<単身高齢世帯数の推移>



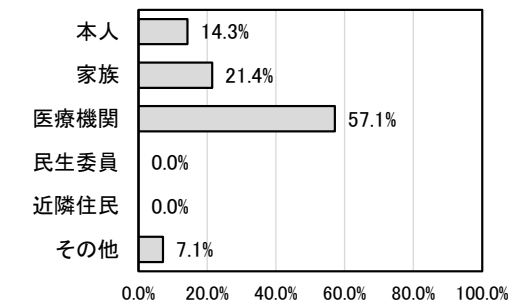
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



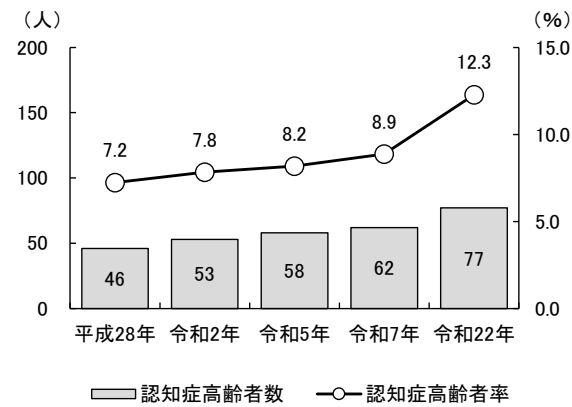
<世帯構成>【n=9】



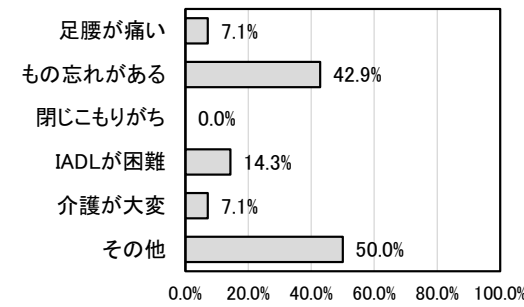
<相談者>【n=14】



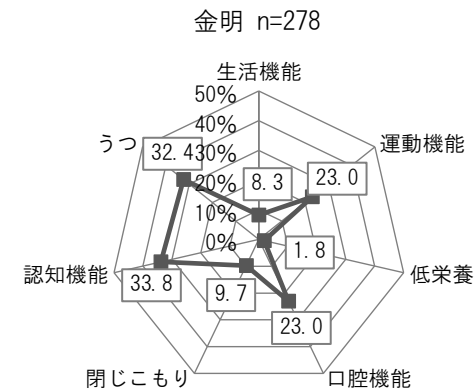
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



<主訴>【n=14】



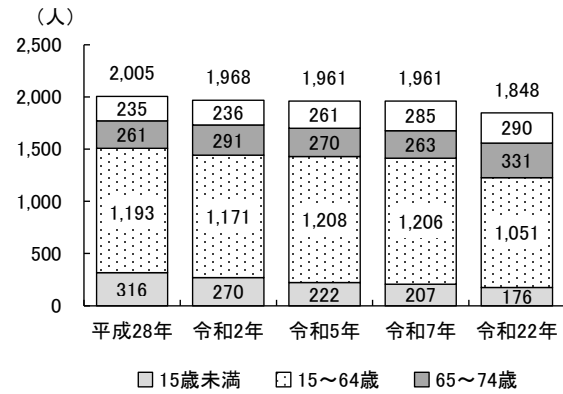
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



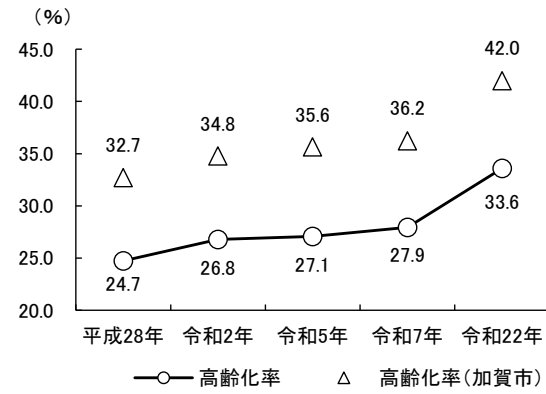
○金明地区の介護予防該当率は62.2%となっており、21地区中13番目の高さとなっている。
○7項目のリスク別該当率は「認知機能リスク」(33.8%)が最も高く、次いで「うつ傾向リスク」(32.4%)となっている。

(10)湖北地区

<人口の推移>

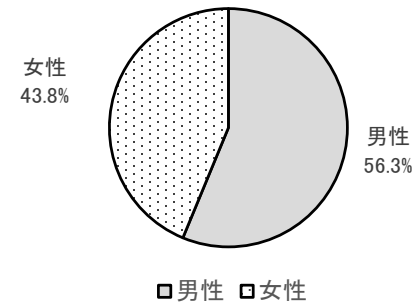


<高齢化率の推移>

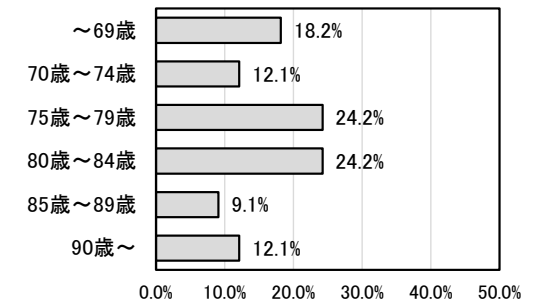


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

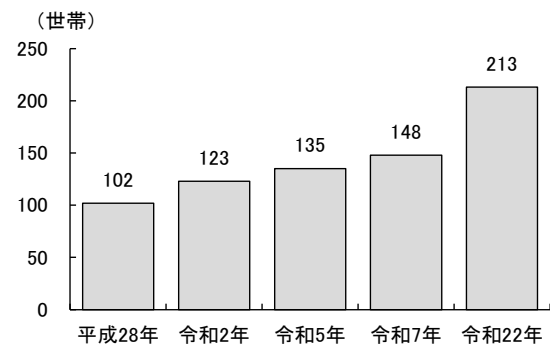
<性別>【n=32】



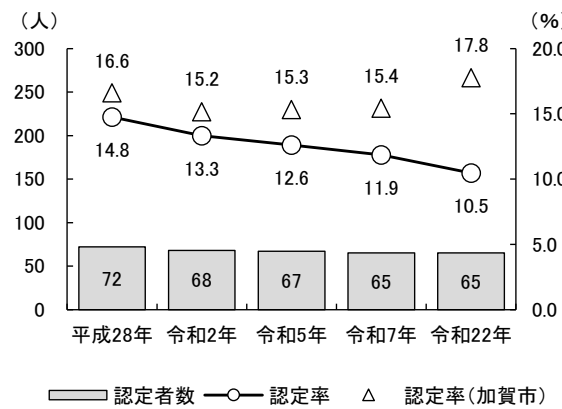
<年齢>【n=33】



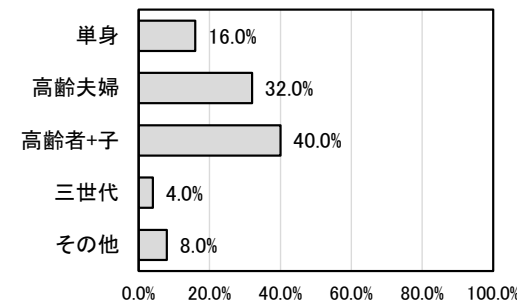
<単身高齢世帯数の推移>



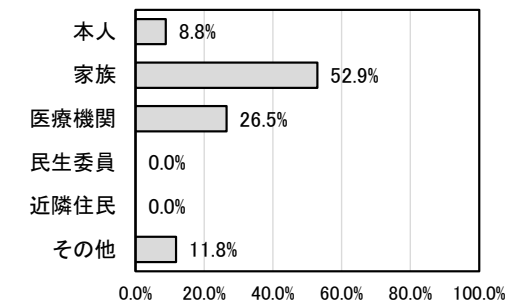
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



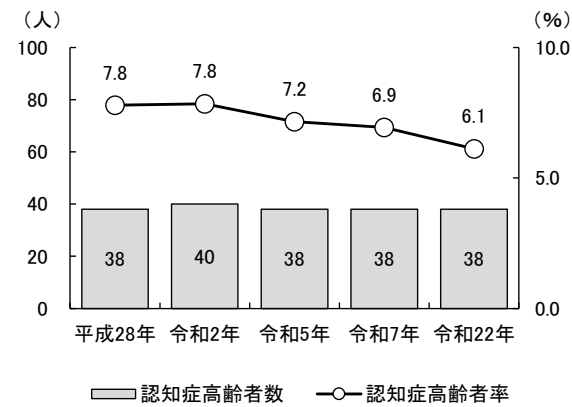
<世帯構成>【n=25】



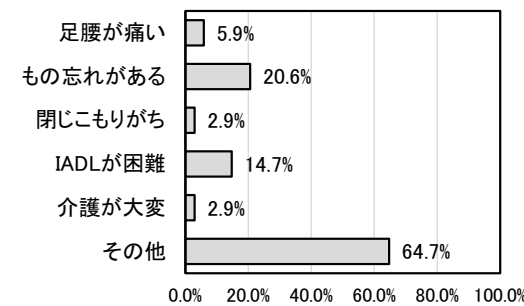
<相談者>【n=34】



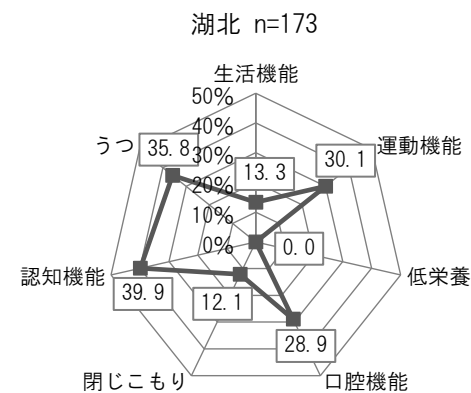
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



<主訴>【n=34】



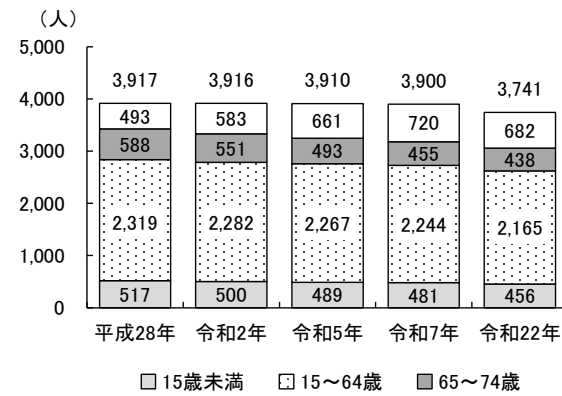
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



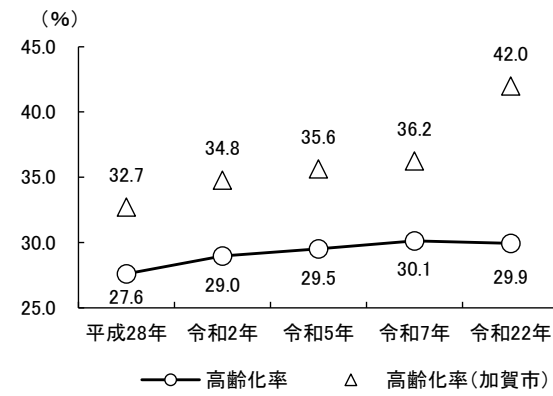
○湖北地区の介護予防該当率は67.1%となっており、21地区中6番目の高さとなっている。
 ○7項目のリスク別該当率は「認知機能リスク」(39.9%)が最も高く、次いで「うつ傾向リスク」(35.8%)となっている。
 ○「認知機能リスク」が21地区中最も高く、「生活機能リスク」が2番目、「閉じこもりリスク」が4番目、「運動機能リスク」が5番目の高さとなっており、「低栄養リスク」は21地区中最も低くなっている。

(11) 動橋地区

<人口の推移>

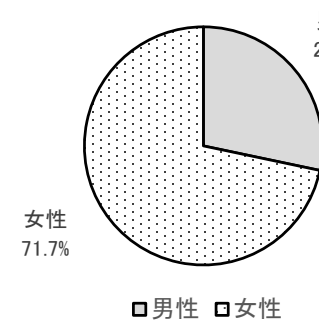


<高齢化率の推移>

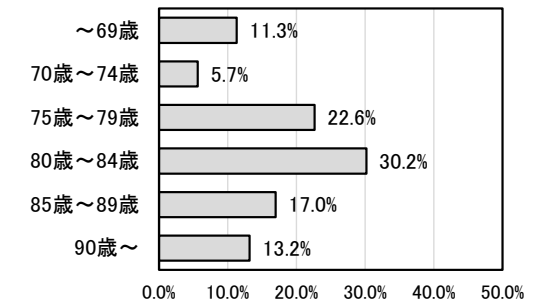


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

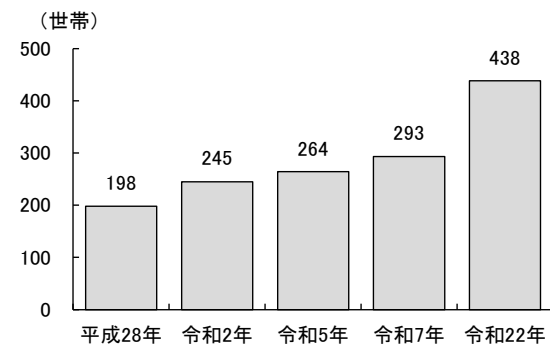
<性別>【n=53】



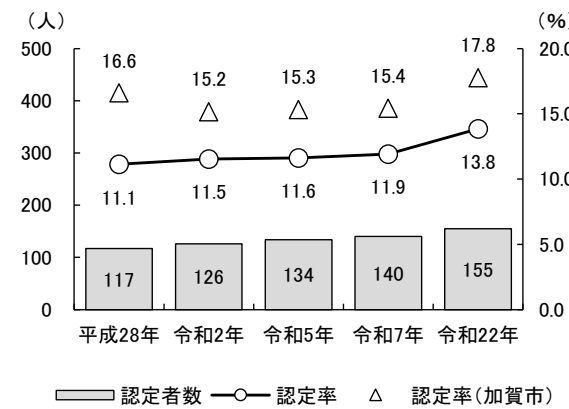
<年齢>【n=53】



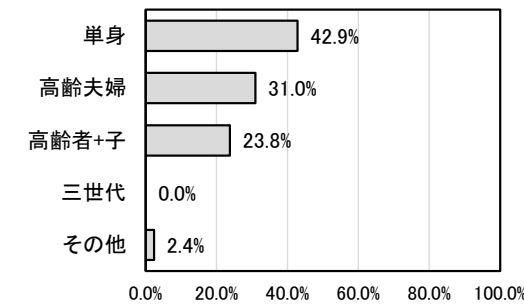
<単身高齢世帯数の推移>



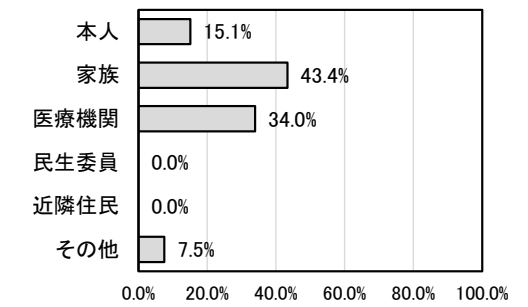
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



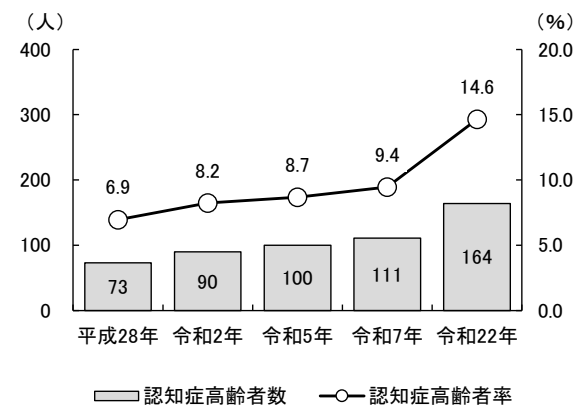
<世帯構成>【n=42】



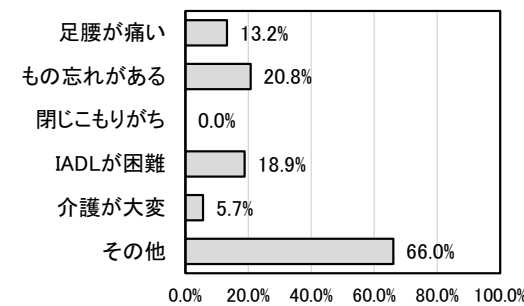
<相談者>【n=53】



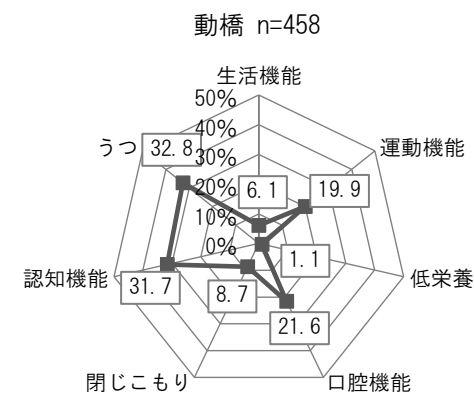
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



<主訴>【n=53】



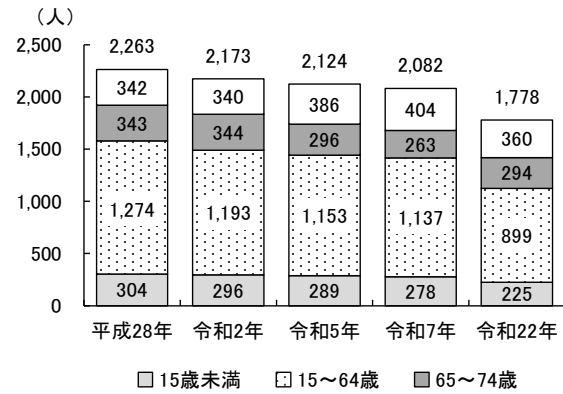
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



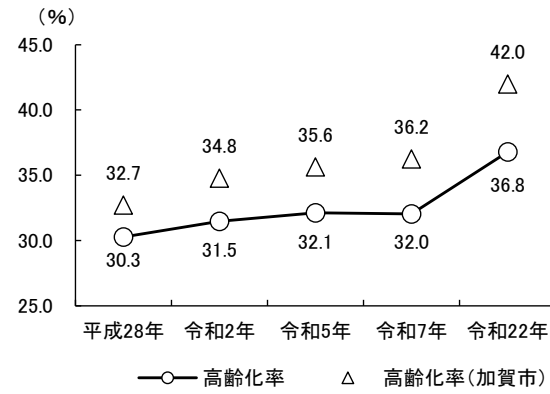
○ 動橋地区の介護予防該当率は58.5%となっており、21地区中18番目の高さとなっている。
 ○ 7項目のリスク別該当率は「うつ傾向リスク」(32.8%)が最も高く、次いで「認知機能リスク」(31.7%)となっている。

(12)分校地区

<人口の推移>

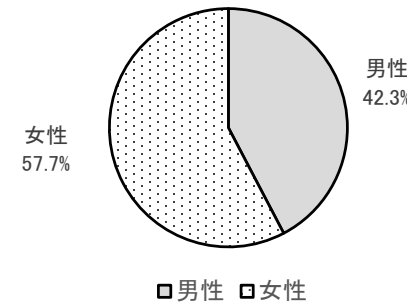


<高齢化率の推移>

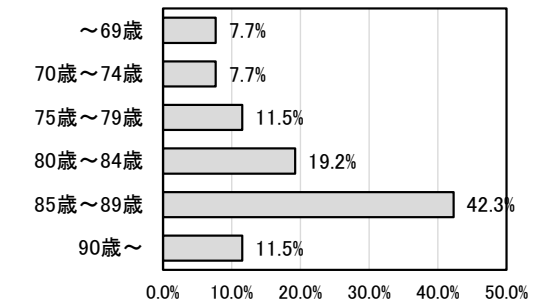


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

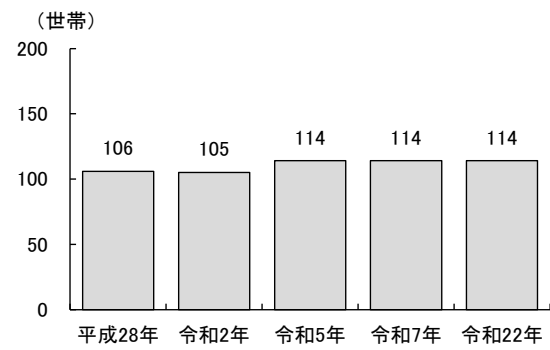
<性別>【n=26】



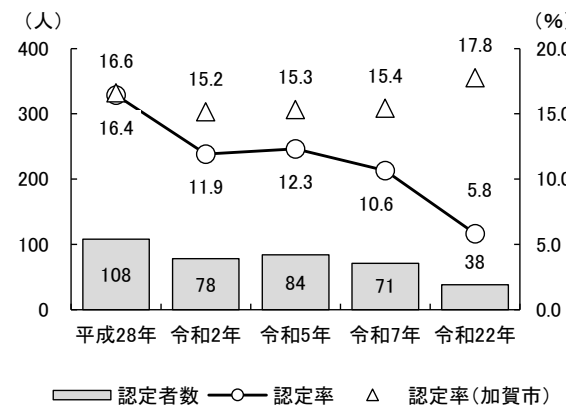
<年齢>【n=26】



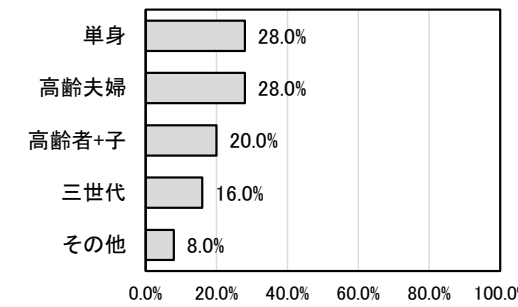
<単身高齢世帯数の推移>



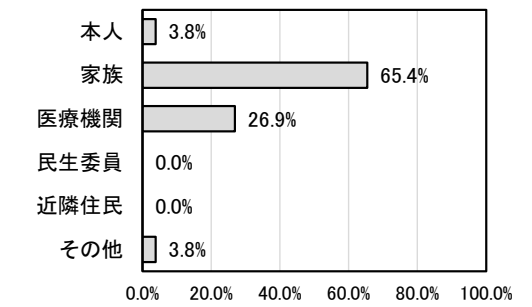
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



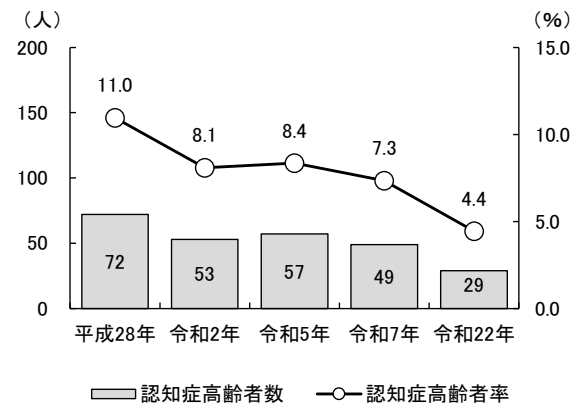
<世帯構成>【n=25】



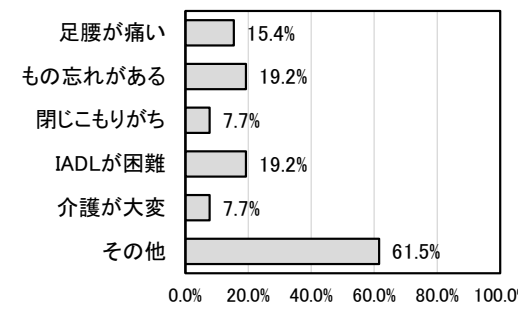
<相談者>【n=26】



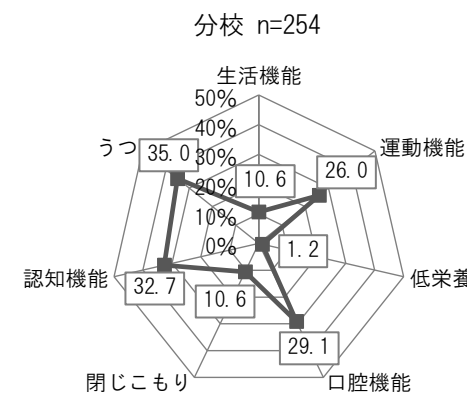
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



<主訴>【n=26】



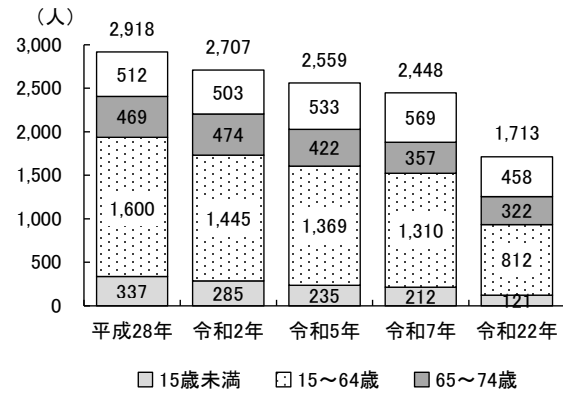
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



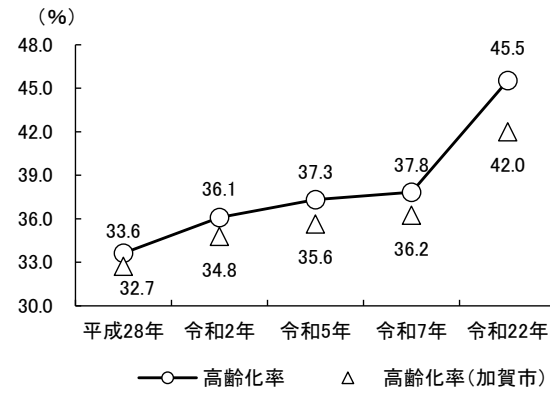
- 分校地区の介護予防該当率は67.7%となっており、21地区中3番目の高さとなっている。
- 7項目のリスク別該当率は「うつ傾向リスク」(35.0%)が最も高く、次いで「認知機能リスク」(32.7%)となっている。
- 「口腔機能リスク」が21地区中5番目の高さとなっている。

(13)橋立地区

<人口の推移>

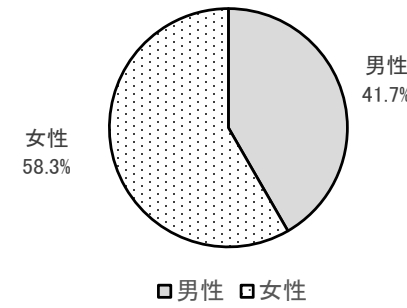


<高齢化率の推移>

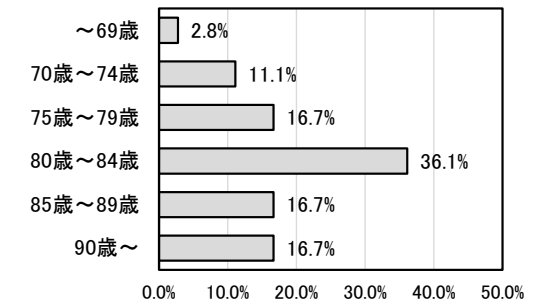


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

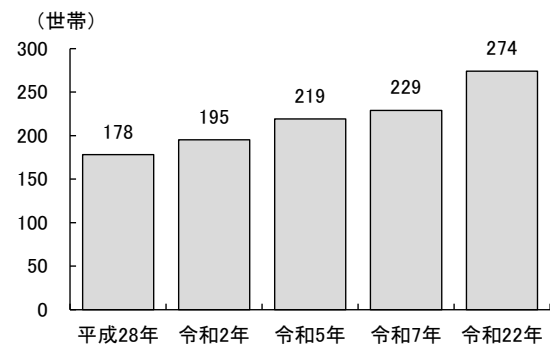
<性別>【n=36】



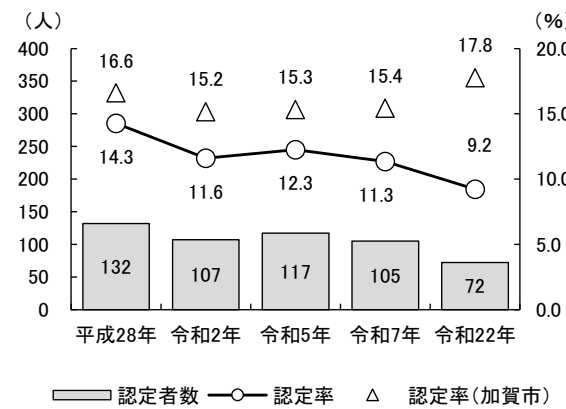
<年齢>【n=36】



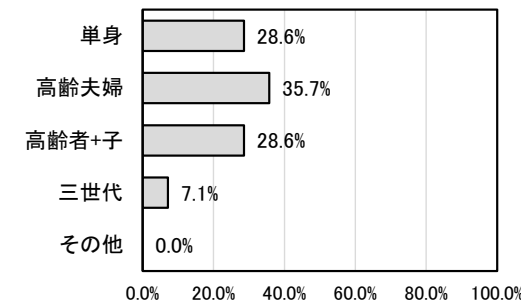
<単身高齢世帯数の推移>



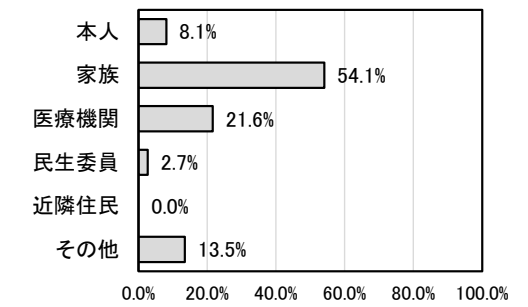
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



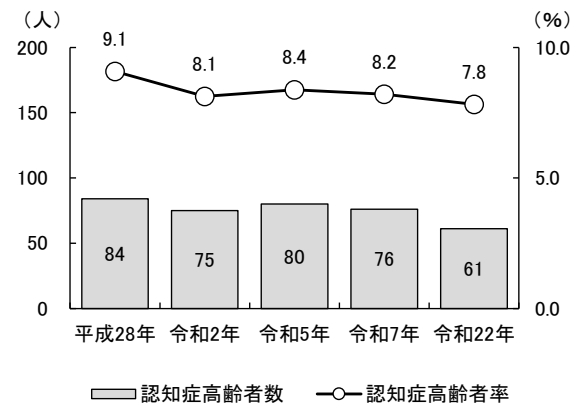
<世帯構成>【n=28】



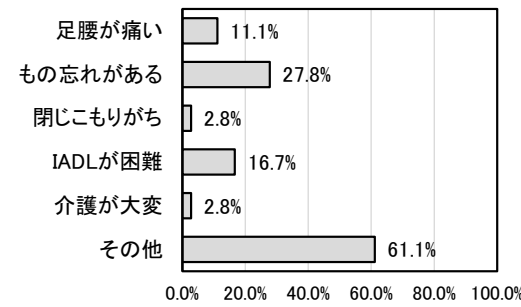
<相談者>【n=37】



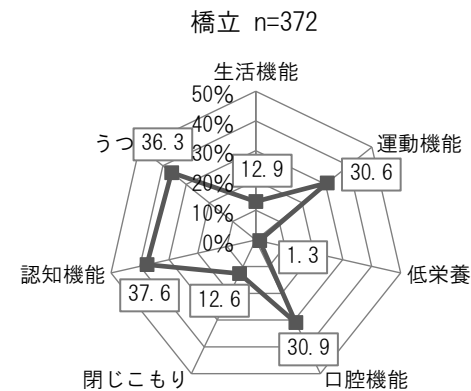
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



<主訴>【n=36】



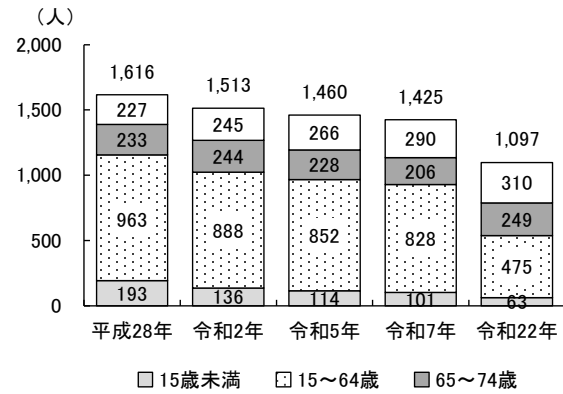
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



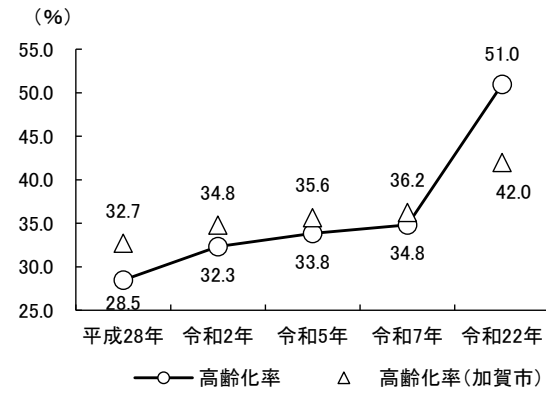
○橋立地区の介護予防該当率は68.3%となっており、21地区中2番目の高さとなっている。
 ○7項目のリスク別該当率は「認知機能リスク」(37.6%)が最も高く、次いで「うつ傾向リスク」(36.3%)となっている。
 ○「運動機能リスク」「口腔機能リスク」「閉じこもりリスク」「認知機能リスク」が21地区中3番目、「生活機能リスク」が4番目、「うつ傾向リスク」が5番目の高さとなっている。

(14)三木地区

<人口の推移>

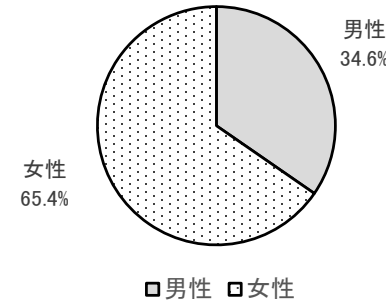


<高齢化率の推移>

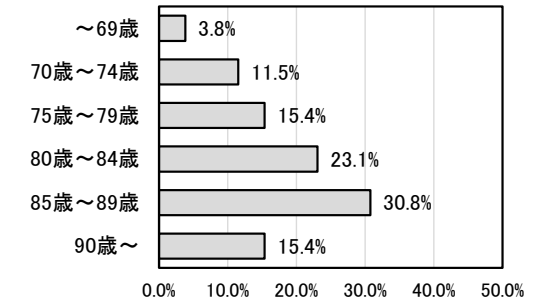


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度 (2019)】

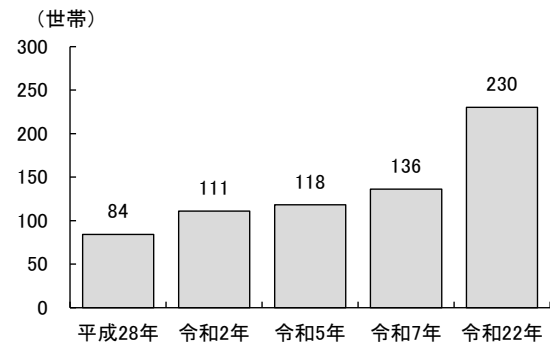
<性別>【n=26】



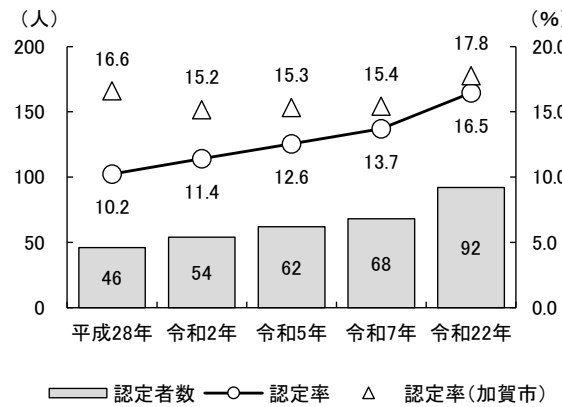
<年齢>【n=26】



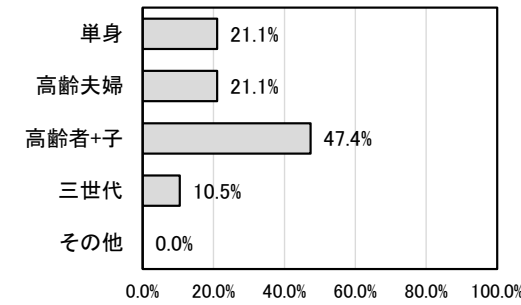
<単身高齢世帯数の推移>



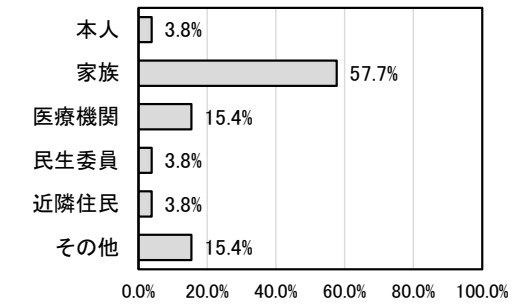
<要介護認定者数と要介護認定率の推移 (入所者除く)>



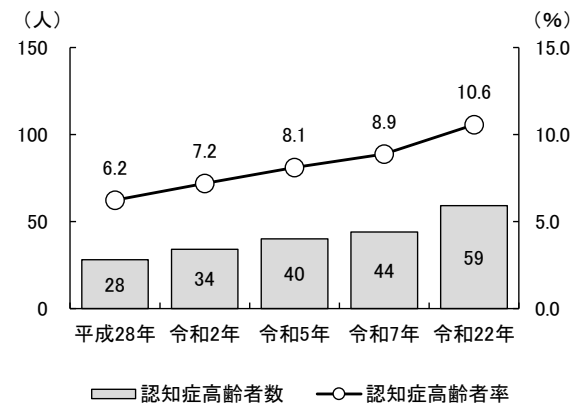
<世帯構成>【n=19】



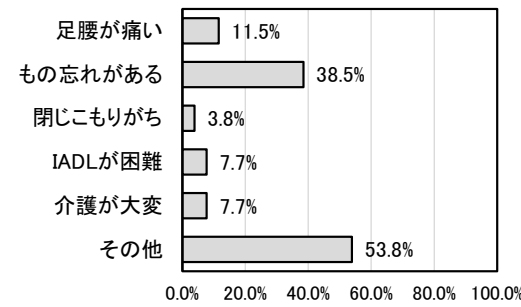
<相談者>【n=26】



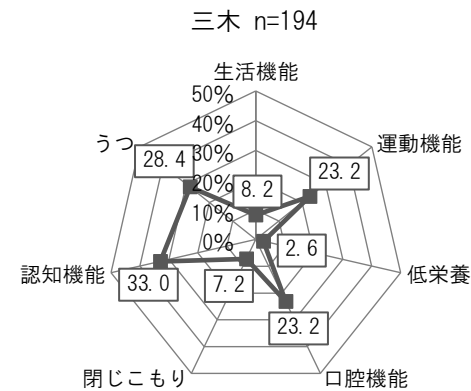
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移 (入所者除く)>



<主訴>【n=26】



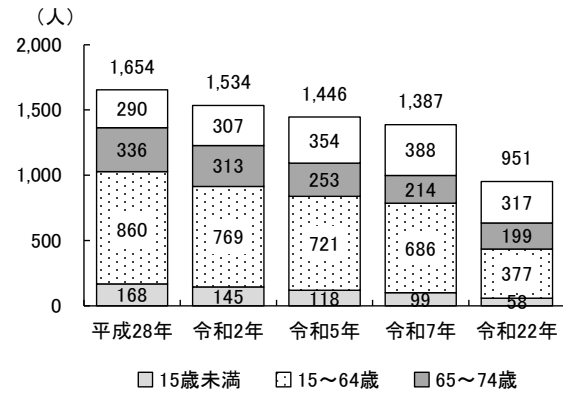
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度 (2020)】



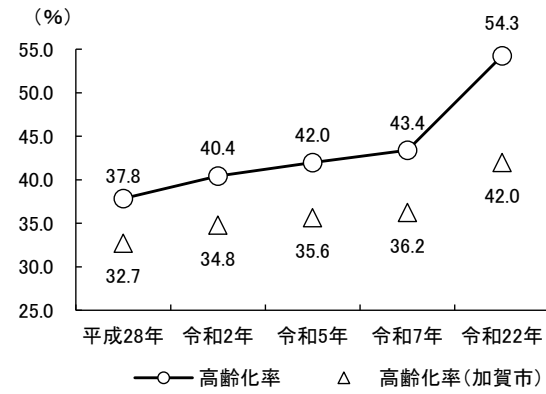
○三木地区の介護予防該当率は57.2%となっており、21地区中19番目の高さとなっている。
○7項目のリスク別該当率は「認知機能リスク」(33.0%)が最も高く、次いで「うつ傾向リスク」(28.4%)となっている。

(15)三谷地区

<人口の推移>

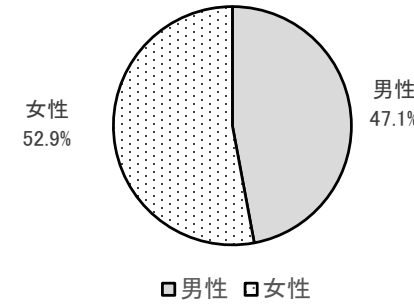


<高齢化率の推移>

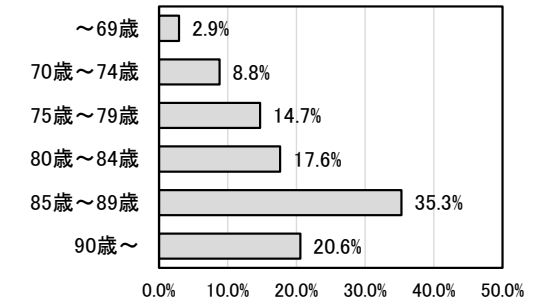


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

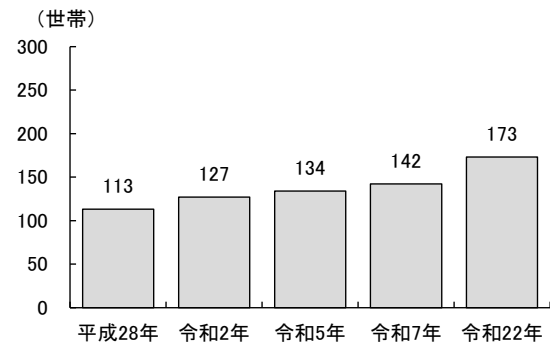
<性別>【n=34】



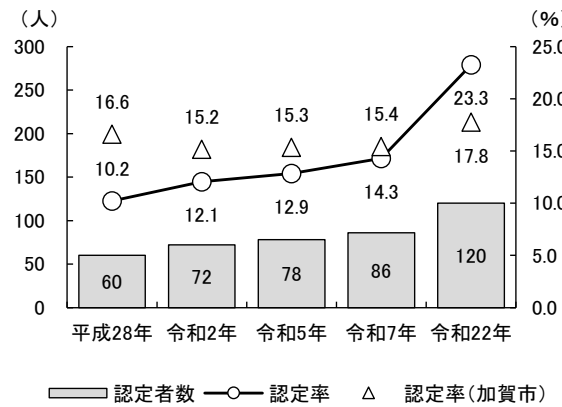
<年齢>【n=34】



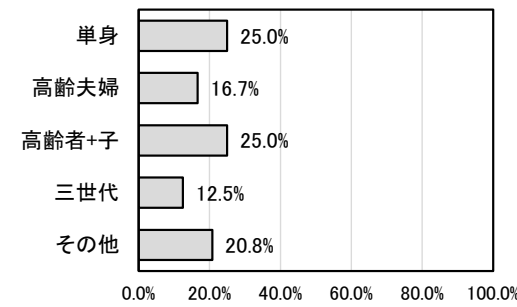
<単身高齢世帯数の推移>



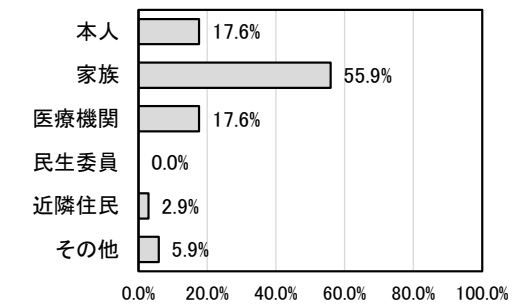
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



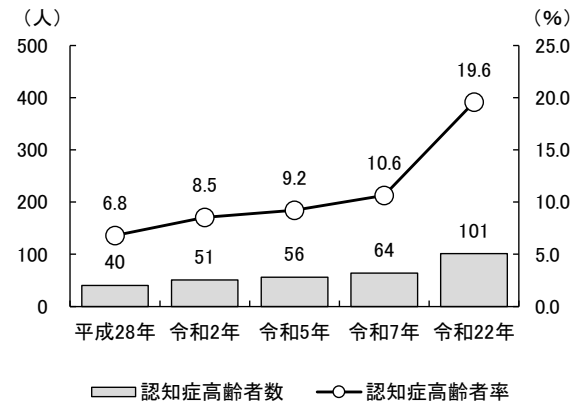
<世帯構成>【n=24】



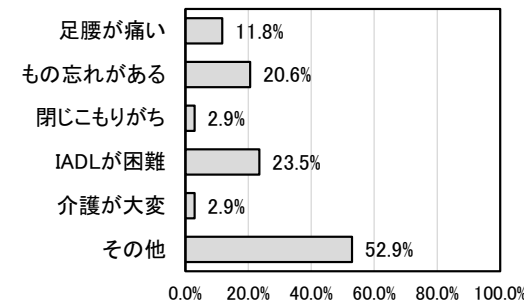
<相談者>【n=34】



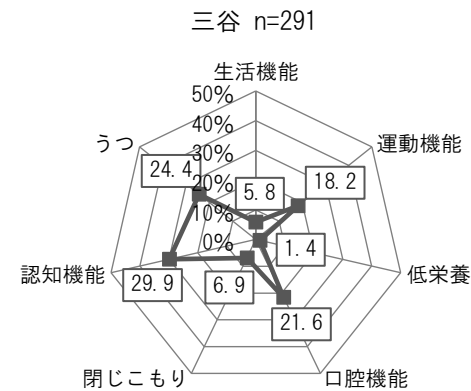
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



<主訴>【n=34】



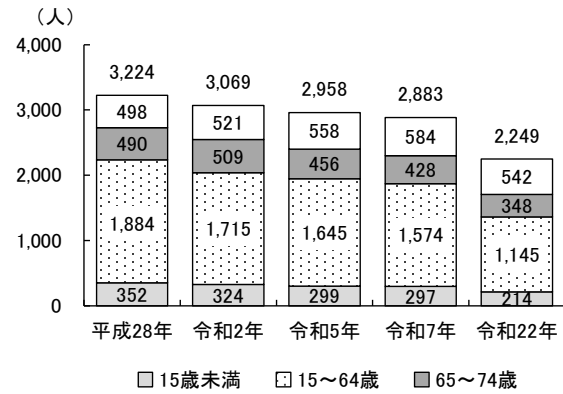
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



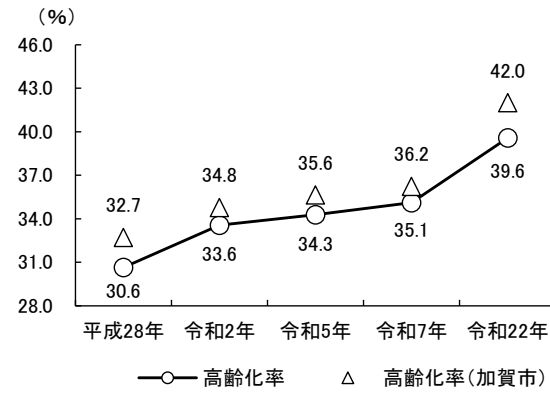
○三谷地区の介護予防該当率は55.0%となっており、21地区中20番目の高さとなっている。
 ○7項目のリスク別該当率は「認知機能リスク」(29.9%)が最も高く、次いで「うつ傾向リスク」(24.4%)となっている。
 ○「生活機能リスク」「運動機能リスク」「閉じこもりリスク」「うつ傾向リスク」が21地区中最も低くなっている。

(16)南郷地区

<人口の推移>

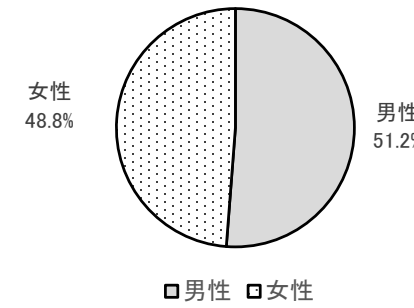


<高齢化率の推移>

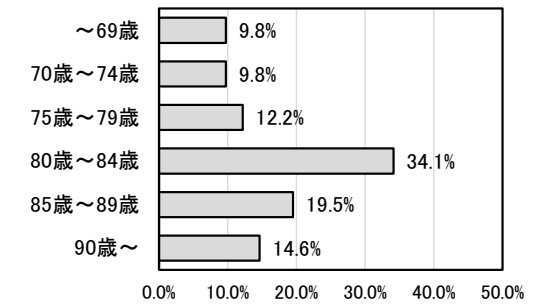


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

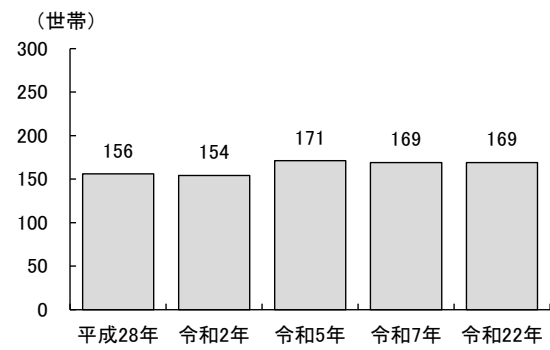
<性別>【n=41】



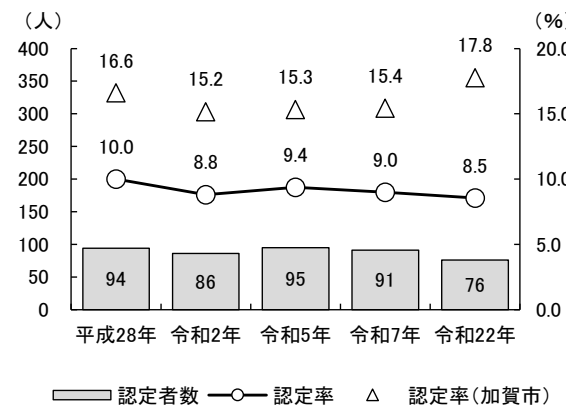
<年齢>【n=41】



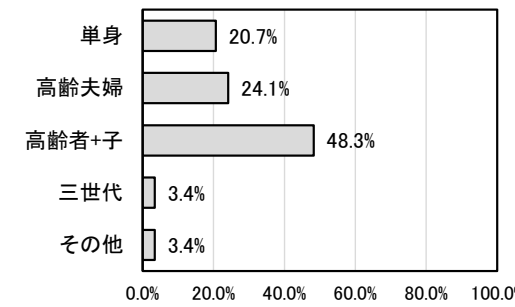
<単身高齢世帯数の推移>



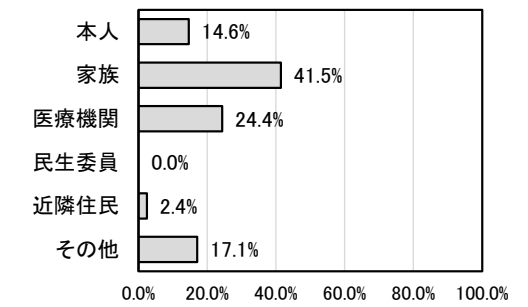
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



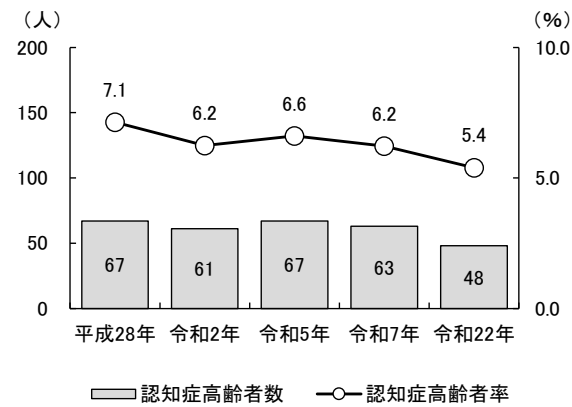
<世帯構成>【n=29】



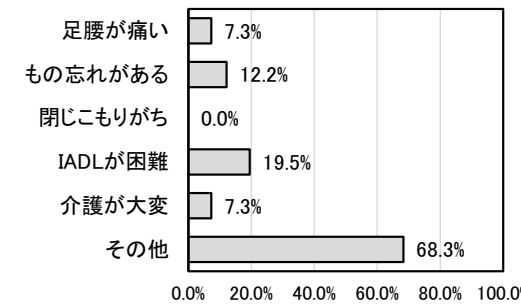
<相談者>【n=41】



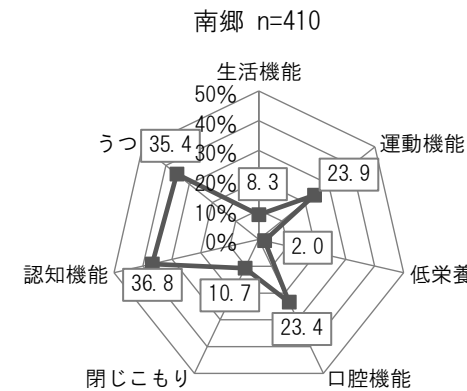
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



<主訴>【n=41】



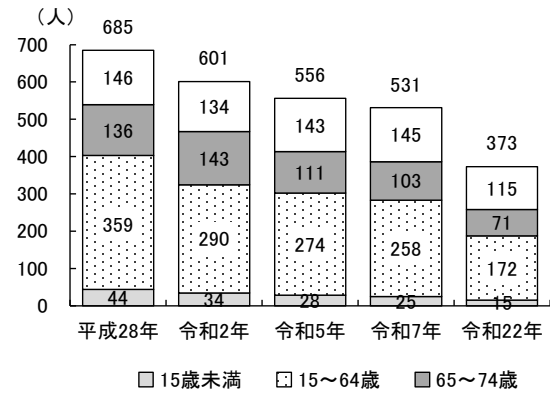
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



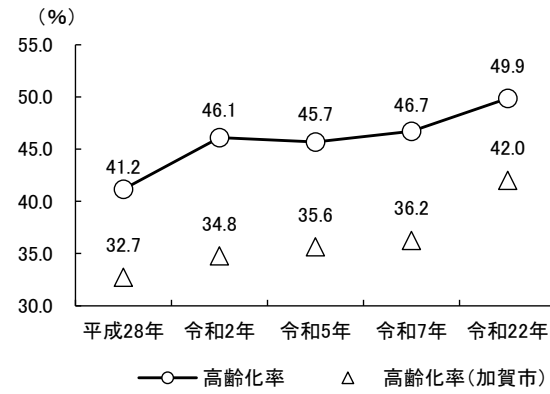
- 南郷地区の介護予防該当率は67.1%となっており、21地区中5番目の高さとなっている。
- 7項目のリスク別該当率は「認知機能リスク」(36.8%)が最も高く、次いで「うつ傾向リスク」(35.4%)となっている。
- 「認知機能リスク」が21地区中4番目の高さとなっている。

(17)塩屋地区

<人口の推移>

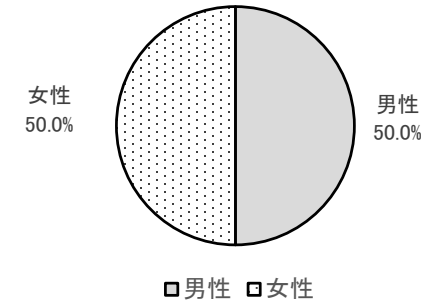


<高齢化率の推移>

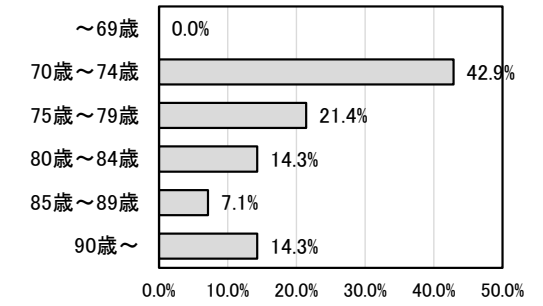


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

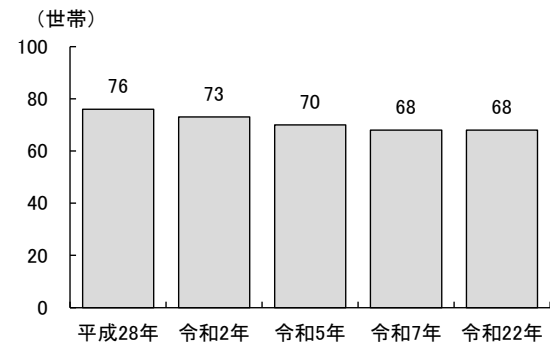
<性別>【n=14】



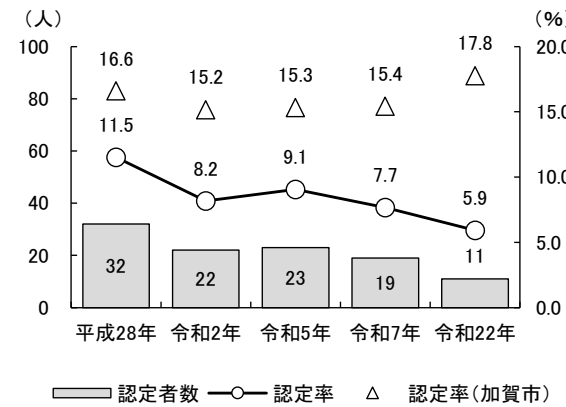
<年齢>【n=14】



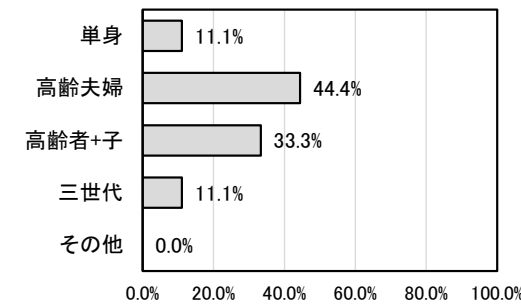
<単身高齢世帯数の推移>



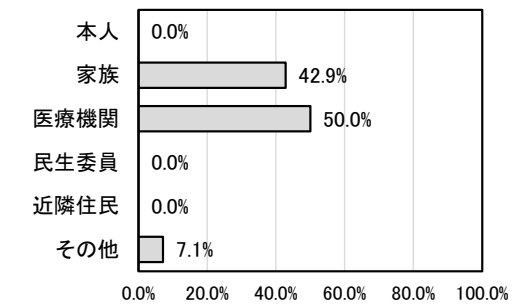
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



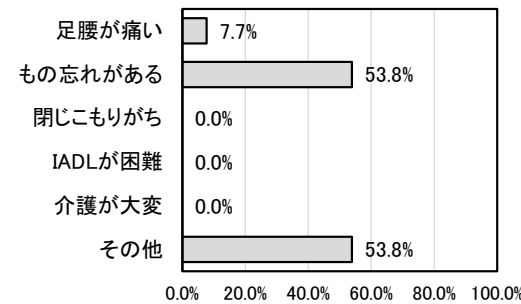
<世帯構成>【n=9】



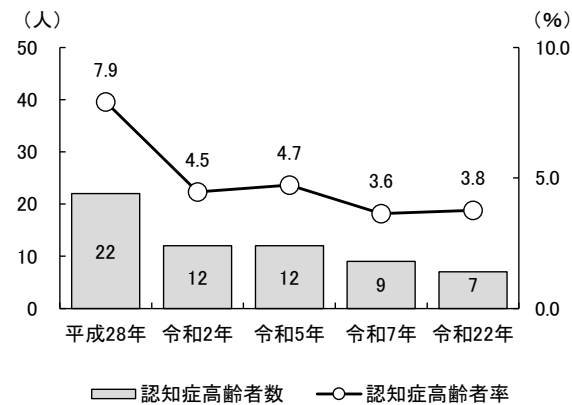
<相談者>【n=14】



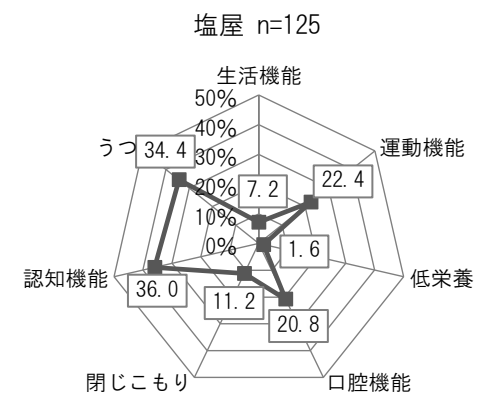
<主訴>【n=13】



<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



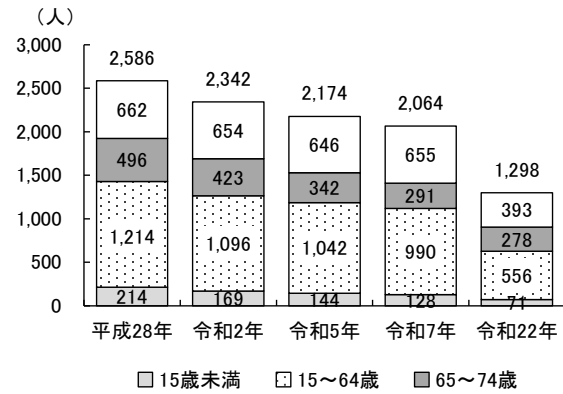
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



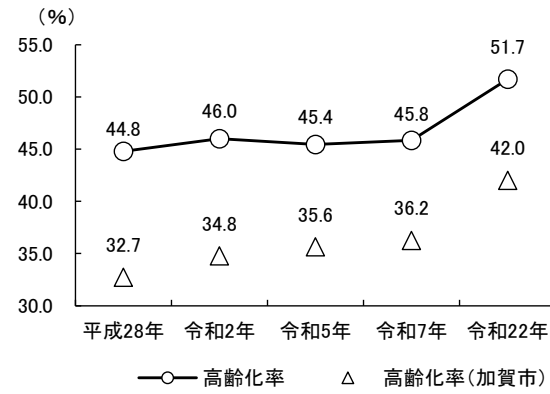
○塩屋地区の介護予防該当率は63.2%となっており、21地区中10番目の高さとなっている。
 ○7項目のリスク別該当率は「認知機能リスク」(36.0%)が最も高く、次いで「うつ傾向リスク」(34.4%)となっている。
 ○「認知機能リスク」が21地区中5番目の高さとなっている。

(18)山中地区

<人口の推移>

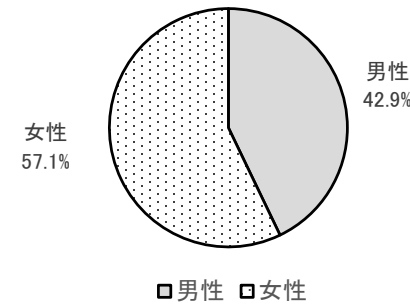


<高齢化率の推移>

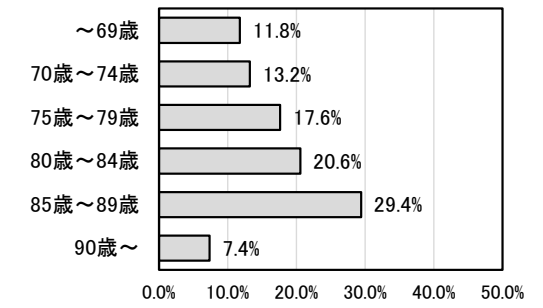


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

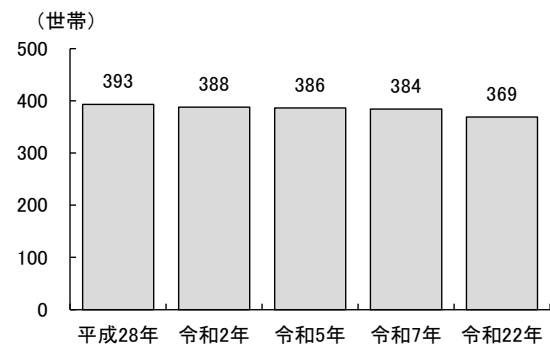
<性別>【n=70】



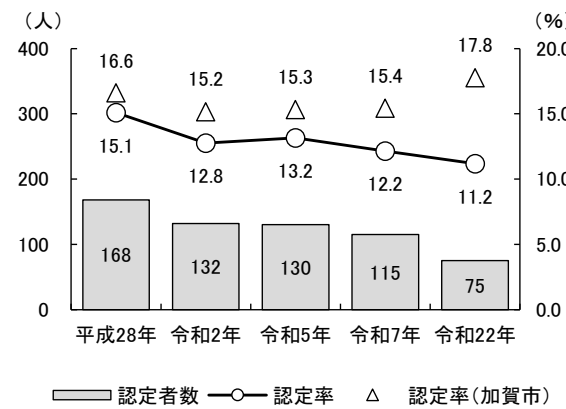
<年齢>【n=68】



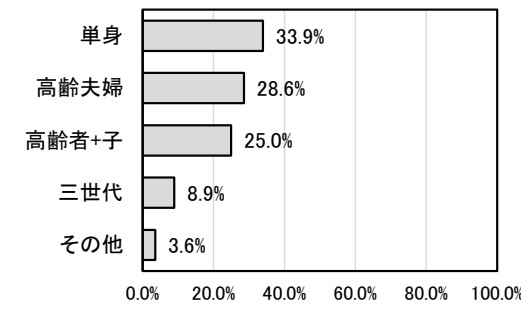
<単身高齢世帯数の推移>



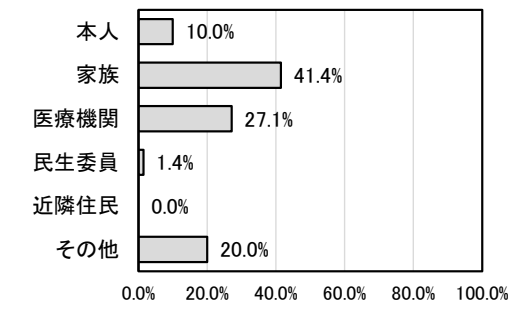
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



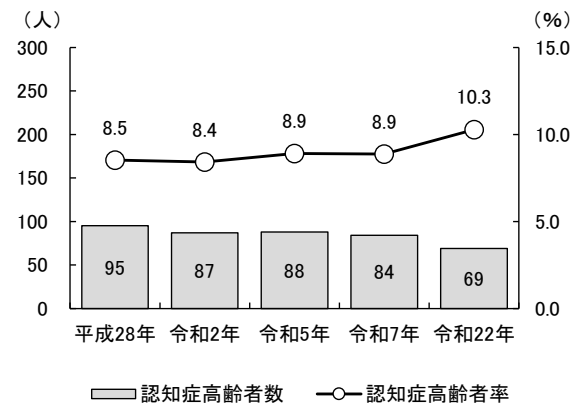
<世帯構成>【n=56】



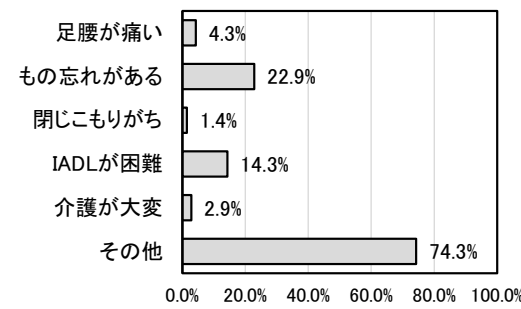
<相談者>【n=70】



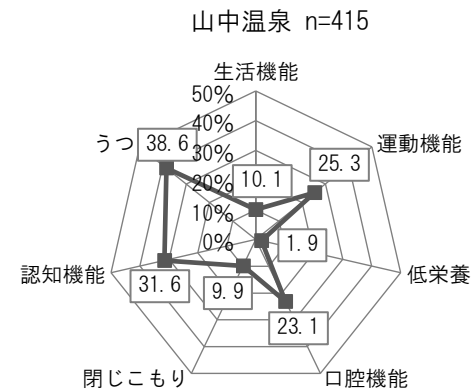
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



<主訴>【n=70】



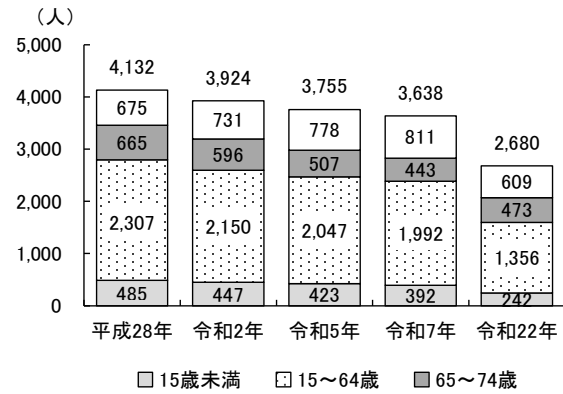
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



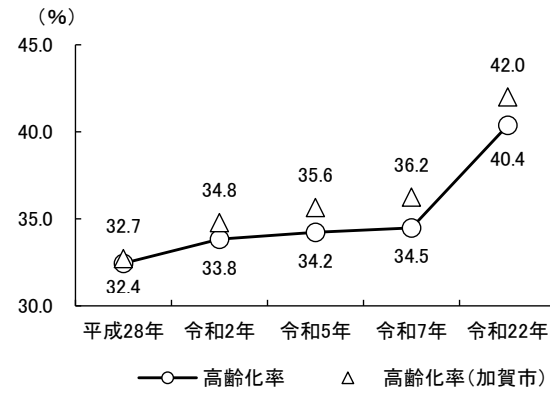
○山中温泉地区の介護予防該当率は61.4%となっており、21地区中14番目の高さとなっている。
 ○7項目のリスク別該当率は「うつ傾向リスク」(38.6%)が最も高く、次いで「認知機能リスク」(31.6%)となっている。
 ○「うつ傾向リスク」が21地区中2番目の高さとなっている。

(19)河南地区

<人口の推移>

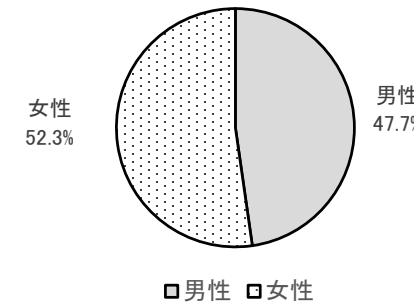


<高齢化率の推移>

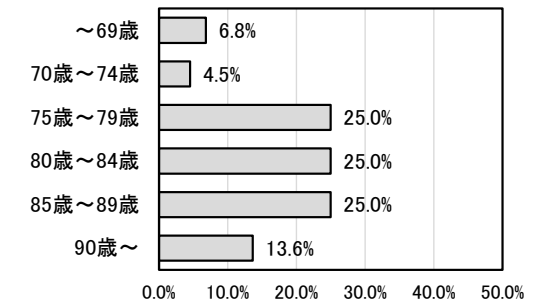


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

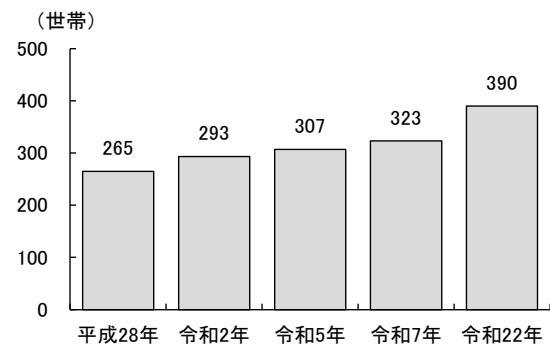
<性別>【n=44】



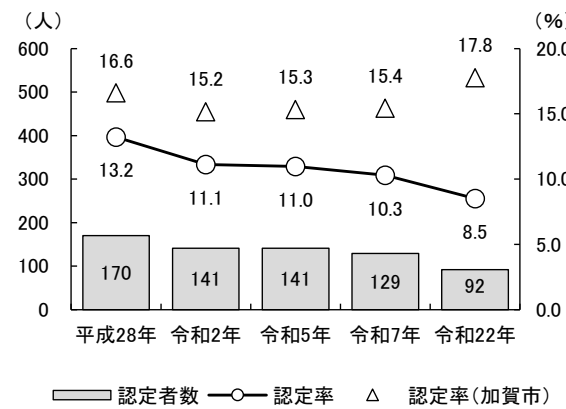
<年齢>【n=44】



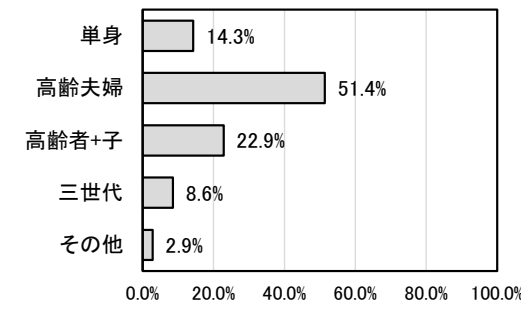
<単身高齢世帯数の推移>



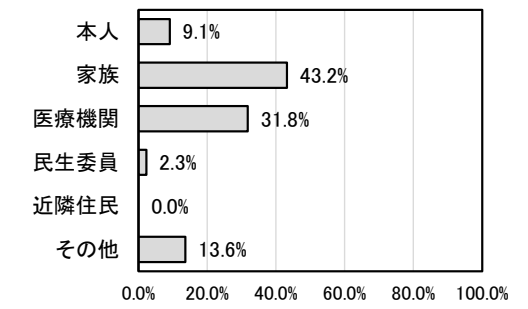
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



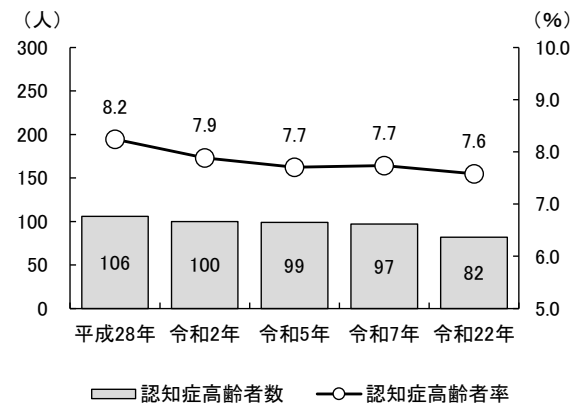
<世帯構成>【n=35】



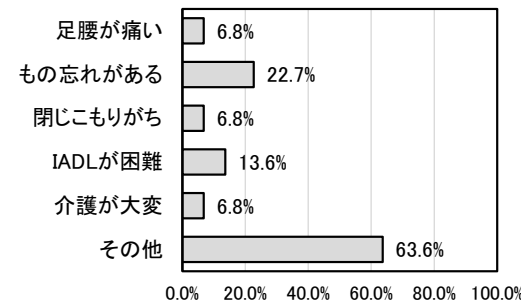
<相談者>【n=44】



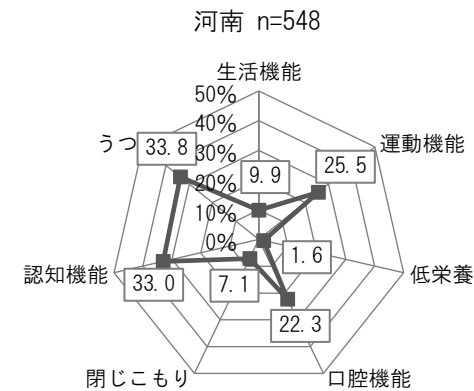
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



<主訴>【n=44】



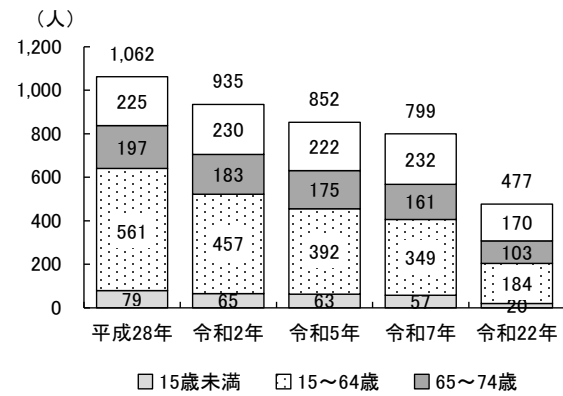
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



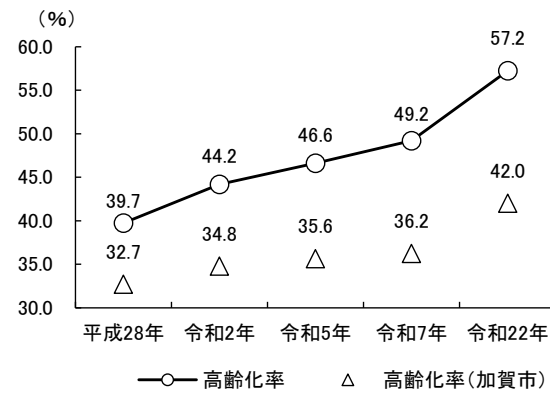
○河南地区の介護予防該当率は62.6%となっており、21地区中12番目の高さとなっている。
○7項目のリスク別該当率は「うつ傾向リスク」(33.8%)が最も高く、次いで「認知機能リスク」(33.0%)となっている。

(20)西谷地区

<人口の推移>

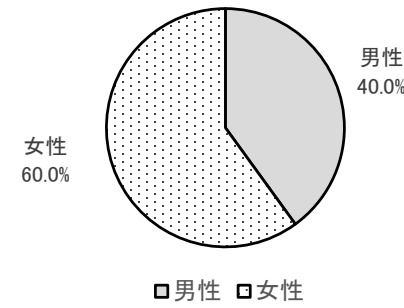


<高齢化率の推移>

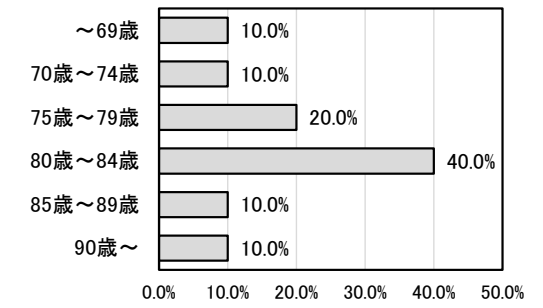


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

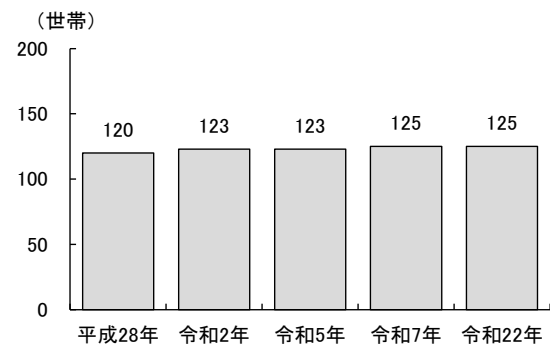
<性別>【n=10】



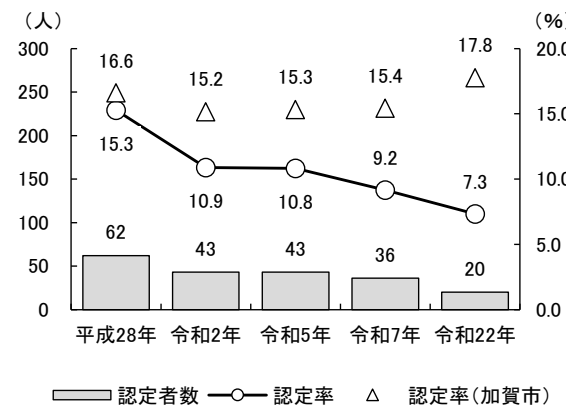
<年齢>【n=10】



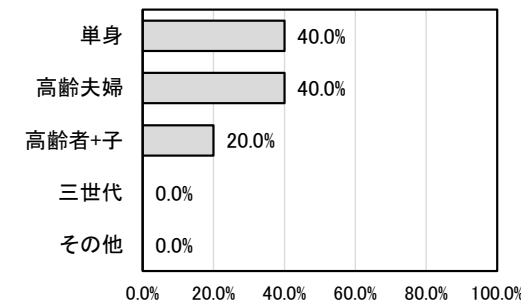
<単身高齢世帯数の推移>



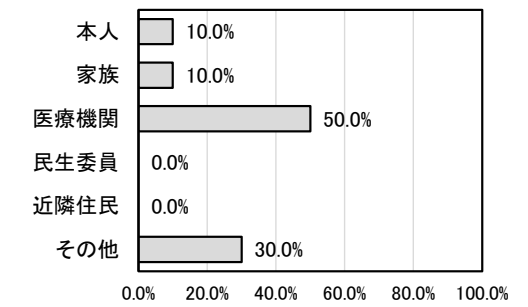
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



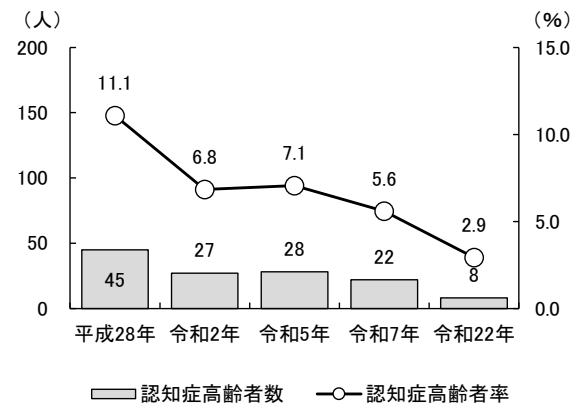
<世帯構成>【n=5】



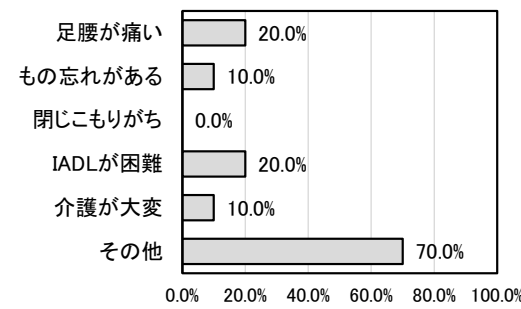
<相談者>【n=10】



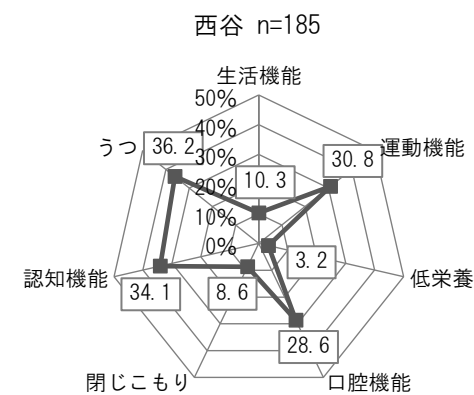
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



<主訴>【n=10】



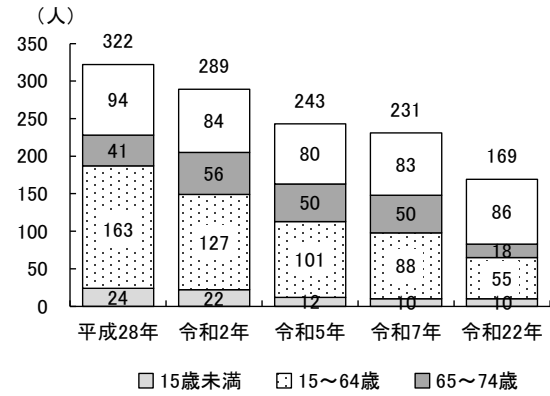
【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



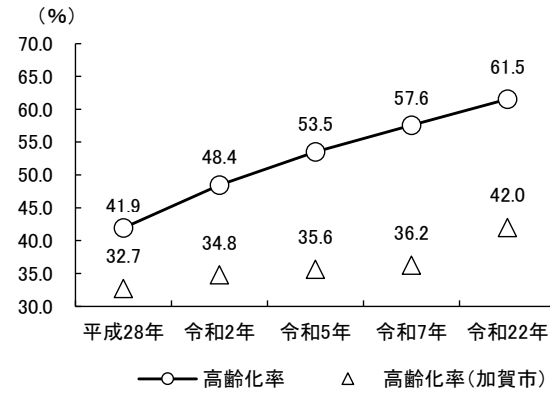
- 西谷地区の介護予防該当率は66.5%となっており、21地区中7場目の高さとなっている。
- 7項目のリスク別該当率は「うつ傾向リスク」(36.2%)が最も高く、次いで「認知機能リスク」(34.1%)となっている。
- 「運動機能リスク」「低栄養リスク」が21地区中2番目の高さとなっている。

(21)東谷地区

<人口の推移>

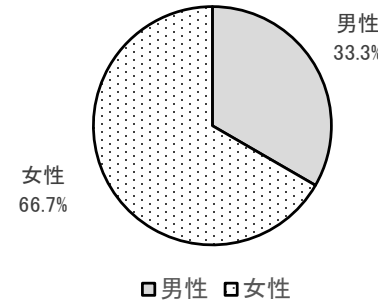


<高齢化率の推移>

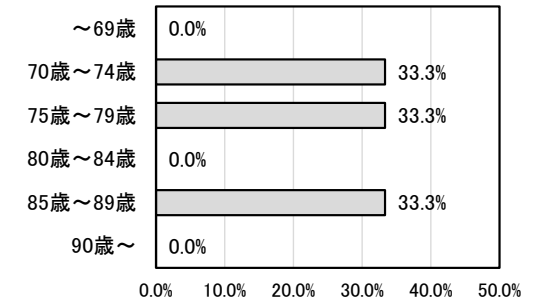


【地域包括支援センターにおける新規相談者の内訳 令和元年度(2019)】

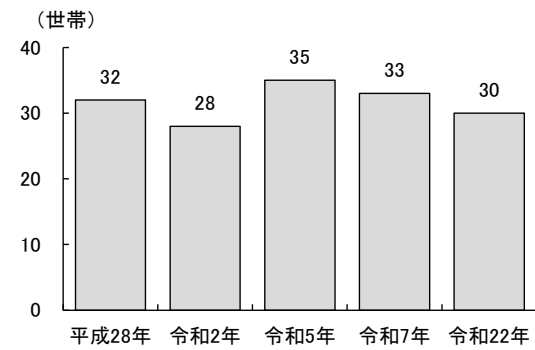
<性別>【n=3】



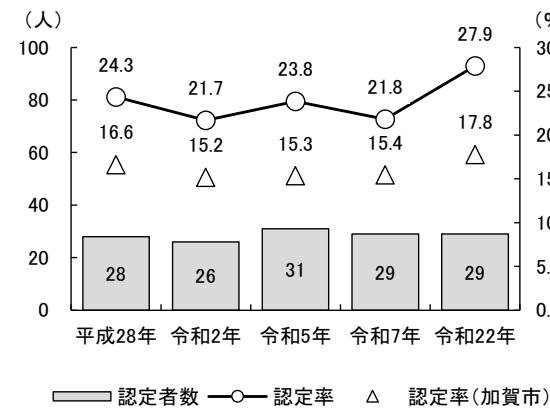
<年齢>【n=3】



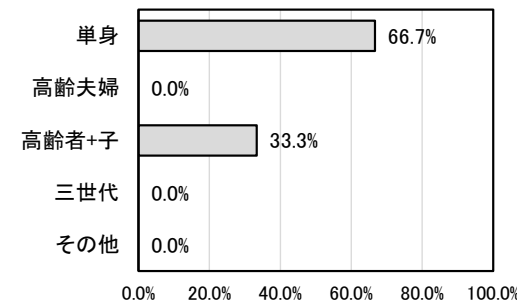
<単身高齢世帯数の推移>



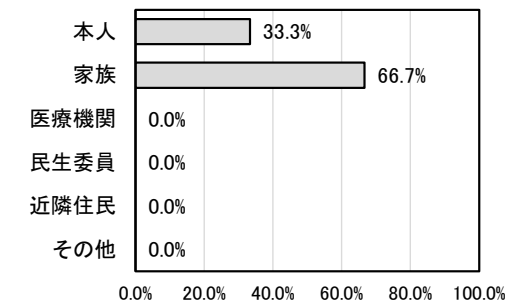
<要介護認定者数と要介護認定率の推移(入所者除く)>



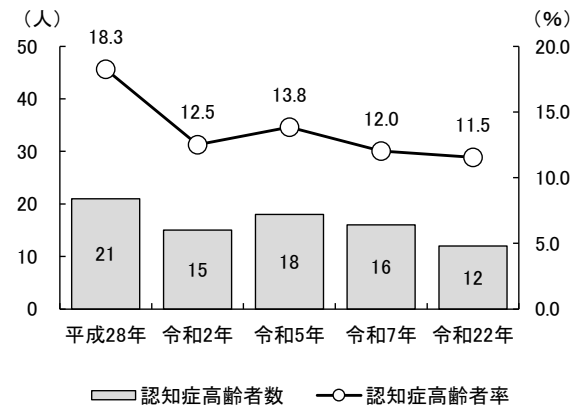
<世帯構成>【n=3】



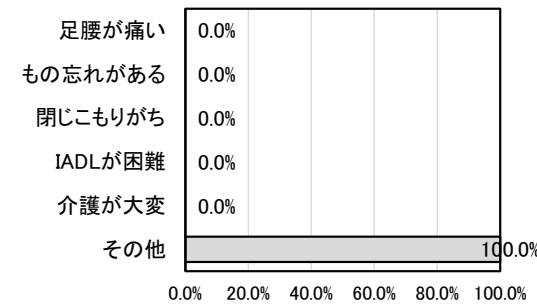
<相談者>【n=3】



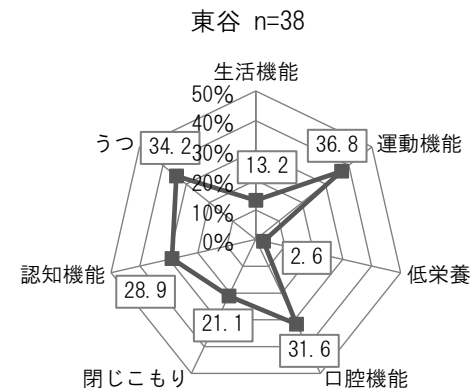
<認知症高齢者と認知症高齢率の推移(入所者除く)>



<主訴>【n=3】



【チェックリストの結果からみる地域の傾向 令和2年度(2020)】



- 東谷地区の介護予防該当率は68.4%となっており、21地区中最も高くなっている。
- 7項目のリスク別該当率は「運動機能リスク」(36.8%)が最も高く、次いで「うつ傾向リスク」(34.2%)となっている。
- 「運動機能リスク」「閉じこもりリスク」が21地区中最も高く、「口腔機能リスク」が2番目、「生活機能リスク」が3番目、「低栄養リスク」が5番目の高さとなっている。